

令和2年度
第4回校内実践発表会

令和2年10月19日

国語科実践発表

～言葉に着目した子どもの「問い」で
授業をつくる～

秋田大学教育文化学部附属小学校

鎌田 雅子

2年次研究の成果と課題

成果

- ・領域や文種の違いによる学びの系統性を子ども自身が意識できる授業の有効性。
- ・1単位時間の国語科の学習の流れを見通していることによって、省察の精度が上がる。

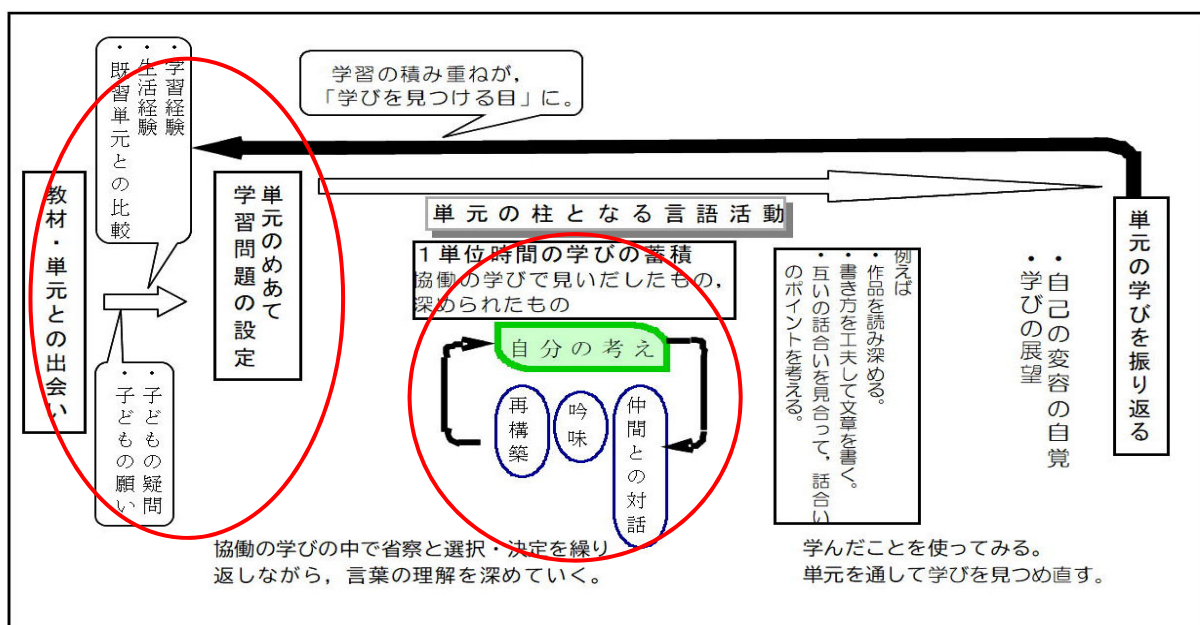
課題

- ・協働的な学びを活性化する問いを子ども自身が発するための手立て。

令和2年度 国語科 研究の重点

- (1) 言葉に関する「問い」を基に選択・決定し，追究し続ける単元構成の工夫
- (2) よりよい言葉の認識や表現につながる，言葉と言葉とを結び付けて行う省察の工夫

～国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス～



1 主体的な学びを支える「問い」

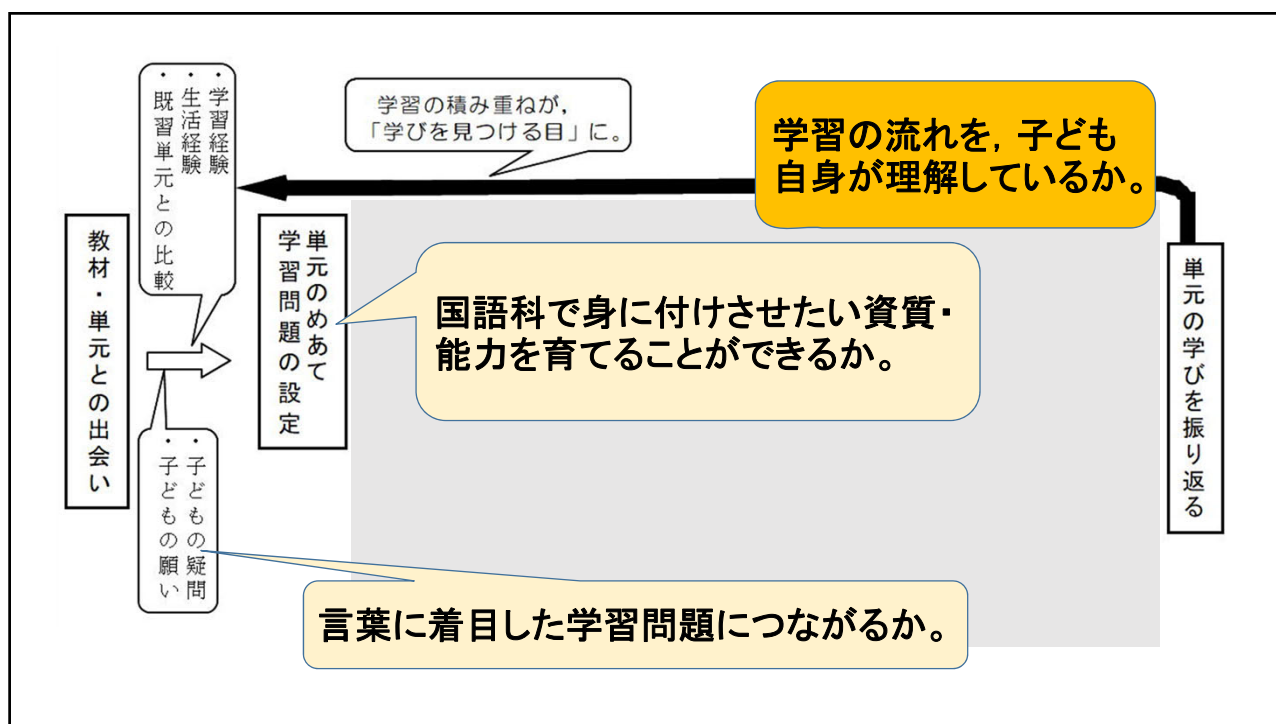
「小学校国語科の課題学習」藤井英子 著 より

課題学習は授業の構造を変える

一般に行われている授業・・・めあてを教師側がぽんと出す。

課題学習・・・学習範囲を読むと「なぜ」「どうして」と疑問や問題が生まれる。
それを基に教師と子どもとが話し合いをしながら教師が学習課題をまとめていく。

何をどこまで学習するのか一人一人の子どもたちが自覚すると、子どもたちは主体的になる。

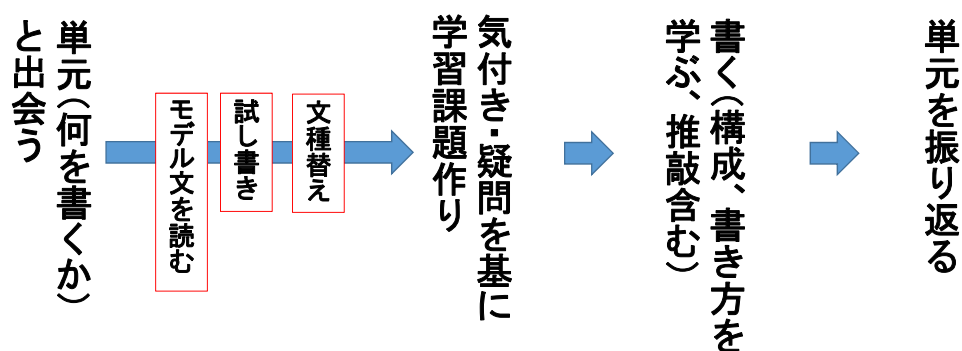


「書くこと」の単元の始まり、 どうしていますか？

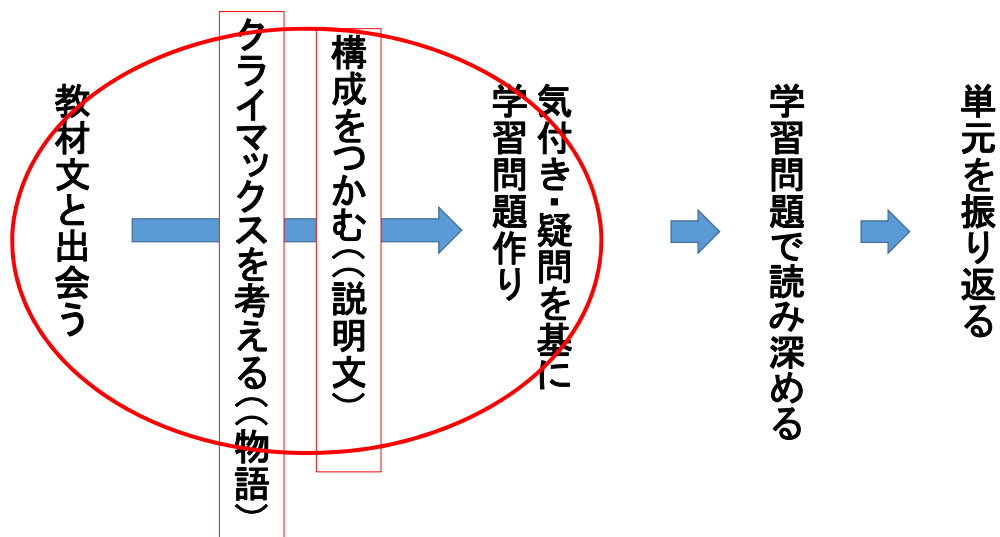
(1) 国語科の学びにつながる「問い」をもつ 力を育てる

① 領域や文種を意識して学びを積み重ねる

基本の学習の流れ(書くことの単元)



基本の学習の流れ(読むことの単元)



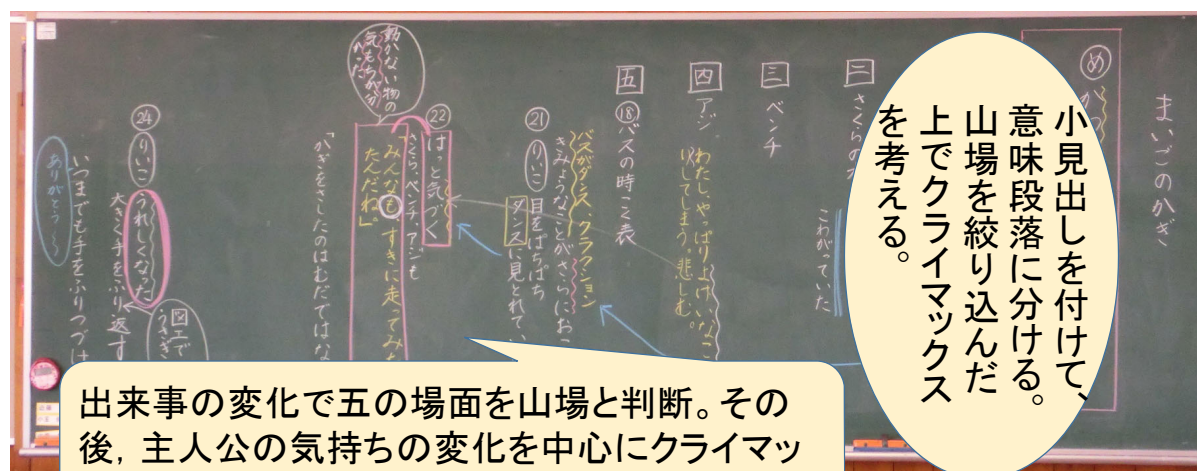
3年 読む視点の変化(初発の感想から)

(/30人)

	7月 「まいごのかぎ」	10月 「ちいちゃんのかげおくり」
主人公の 気持ち が一番変化した場面に着目	14人	23人
自分にとって印象深い場面 (単におもしろい、不思議、クライマックスとの関わりなし)	16人	7人

3年 文学的文章「まいごのかぎ」

① スモールステップでクライマックスをつかむ



出来事の変化で五の場面を山場と判断。その後、主人公の気持ちの変化を中心にクライマックス場面の話合いが進んだ。

② 「問い」を吟味する

主人公(中心人物)の言動に注目しよう。

自分で「学習問題」作りをする。

クライマックスの近くで、「普通だったらこんなことしないのに」と思うことを探してみよう。

グループで吟味する。

少し読めば答えが分かる「問い」ではないかな。

全体で吟味する。

読んでも答えが出ない「問い」ではないかな。

協働で学ぶ学習問題

A:じゃあ、「なぜ、何日も一人で家族を待っていたのか。」

B・C: ああ。(なるほど)

A: 普通だったら、あきらめるから。

B: (ちいちゃんが亡くなった場面を指して)「わたしの命、消えちゃったのね。」と思うはずなのに、「体が軽くなったから空に浮いたのね。」と言ったのはなぜか。

C: え？死んじゃったと思いたくないから？

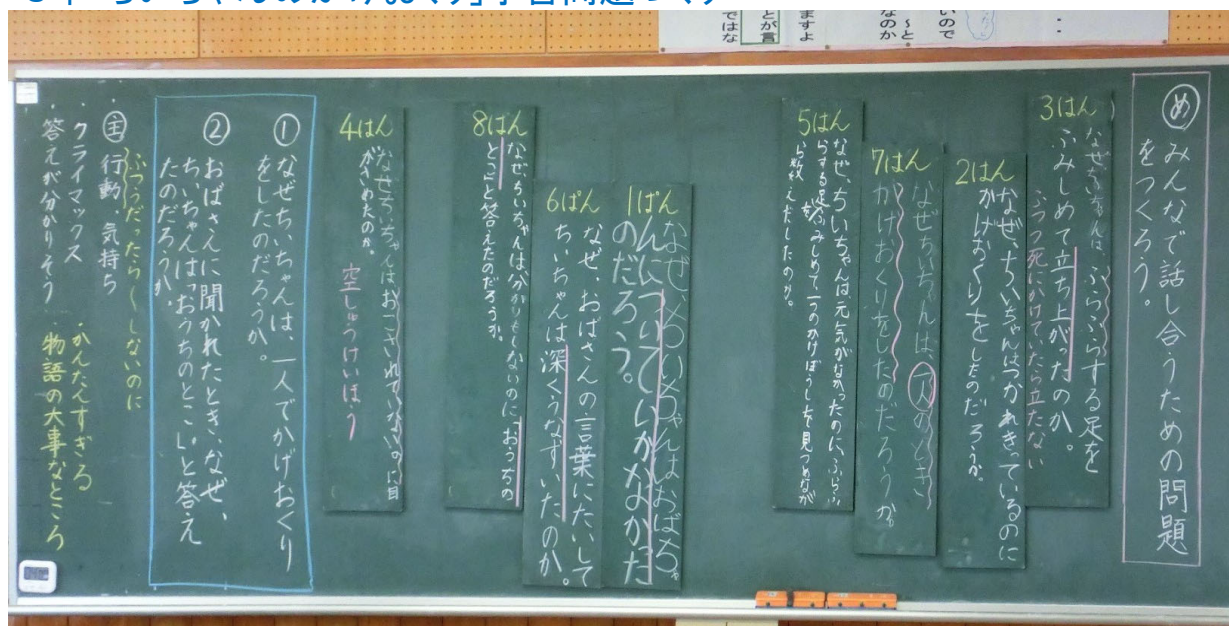
B: 普通だったら「おなか为空いて軽くなった」とは言わない。

C: いや、ちょっといいかな。ちいちゃん、何歳ぐらいだと思ってる？

A: それは、まずいい！（今、関係ない）

C: はい、はい、はい。

3年「ちいちゃんのかげおくり」学習問題づくり



取組の成果

- 学びをつなげるためには、単元の導入部で、領域ごとの学び方の違いを意識させつつ学習経験を積むことが有効である。
- 国語の学習を進める「問い」を発する力を高めるためには、着目すべき言葉を吟味する場を設定することが有効である。

取組の課題

- 単元の柱となる大きな「問い」の解決に必要な小さな「問い」を見いだす力を育てる手立て
- 協働的な学びの中で「問い」を発する子どもの姿を引き出す手立て

【引用・参考文献】

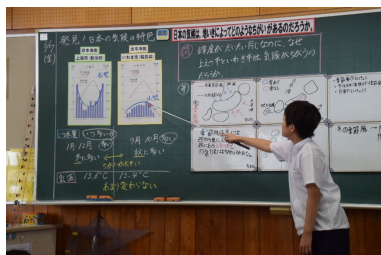
- ・藤井英子(2019)「小学校国語科の課題学習」 明治図書
- ・読みの授業研究会(2016)「国語力をつける説明文・論説文の『読み』の授業 一読む力を確かに育てるあたらしい指導法入門一」 明治図書
- ・読みの授業研究会(2018)「国語の授業で『深い学び』をどう実現していくか 『言葉による見方・考え方』の解明と教材研究の深化」 明治図書

令和2年度
第4回校内実践発表会

No. 1

令和2年10月19日

個と協働的な学びをつなぎ 資質・能力を高める社会科学習 －第6学年の実践を事例として－



秋田大学教育文化学部附属小学校
社会科部 鈴木 聡

No. 2

発表内容

- 1 社会科研究テーマ・課題
- 2 社会科の研究の重点
- 3 第6学年の実践「戦国の世から天下統一へ」
 - (1) 実践の概要
 - (2) 重点1に関わる手立てと子どもの姿
 - (3) 重点2に関わる手立てと子どもの姿
 - (4) 成果と課題

1 社会科学研究テーマ・課題

No. 3

研究テーマ

社会的事象の「見方・考え方」を
自覚的に用いて課題を追究し、
社会と自分とのつながりを見いだす
子どもを育む学び

1 社会科学研究テーマ・課題

No. 4

昨年度の実践の課題

- ①問題解決の**見通し**をもって仲間と**協働的に**
追究するための単元構成の工夫
- ②活用した社会的事象の「**見方・考え方**」が
適切であるのかを、**見つめ直す**省察の場の工夫

2 社会科の研究の重点

No. 5

重点（１）

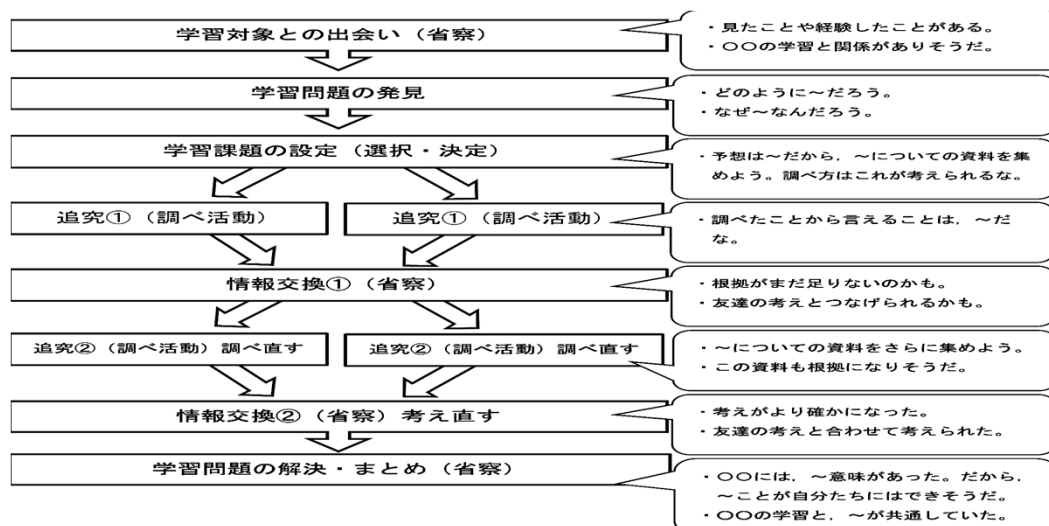
問題解決の見通しをもち、社会的事象について仲間と協働的に追究するための
「選択・決定」を位置付けた単元構成の工夫

重点（２）

社会的事象についての認識の深め、
 自分なりに意味付けることに結び付くための
省察の場の工夫

2 社会科の研究の重点

No. 6



社会科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 社会科の研究の重点

No. 7

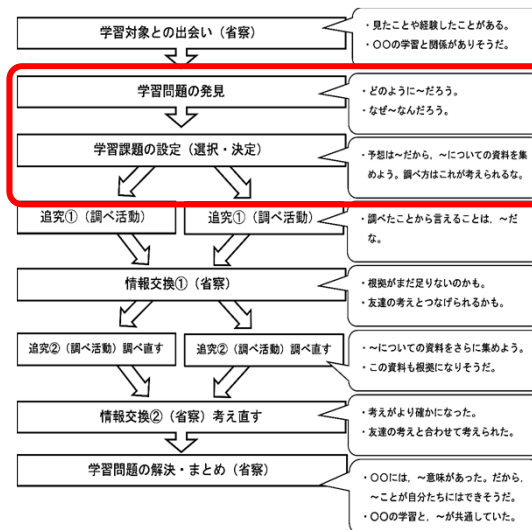
重点（１）

問題解決の見通しをもち、社会的事象について仲間と協働的に追究するための「選択・決定」を位置付けた単元構成の工夫



キーワード

- ・学習問題の解決への見通し
- ・大きな「選択・決定」の場
⇒追究していく学習課題を設定する場
- ・一人一人がそれぞれ調べたり考察したりする複線型の展開



社会科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 社会科の研究の重点

No. 8

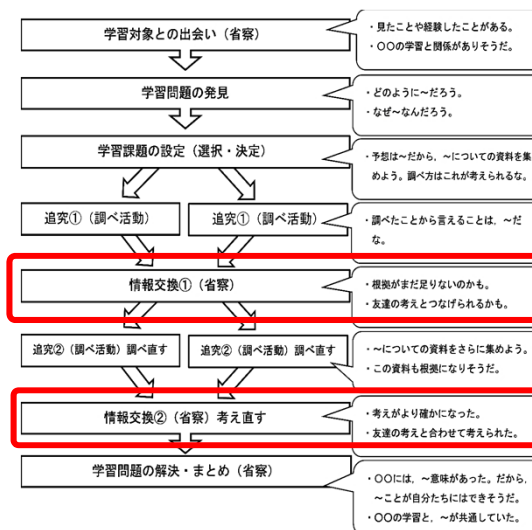
重点（２）

社会的事象についての認識の深め、自分なりに意味付けることに結び付くための省察の場の工夫



キーワード

- ・自分なりの社会的事象の特色や意味についての捉え、それを支える根拠や理由が妥当であるのかを**見つめ直す**
- ・様々な集団で「対話」する活動の設定



社会科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

3 第6学年の実践－実践の概要－

No. 9

単元名

戦国の世から天下統一へ（総時数 7 時間）

本単元で育む主な資質・能力

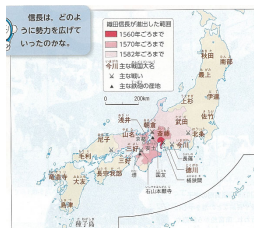
キリスト教の伝来や、織田信長・豊臣秀吉の働きに着目して、戦国の世が統一されたことを捉え、人物の役割を考える。（1-26）

3 第6学年の実践－実践の概要－

No.10

本単元の学習活動で働かせる**主な「見方・考え方」**

- ・推移や背景に着目し、戦国の世の統一について、戦い方の工夫、政策、外国との関わりの複数の視点を関連付け・総合して考える。



3 第6学年の実践－重点（1）に関わって－

No.11

学習問題の設定

導入で提示した戦国大名や信長・秀吉の年表の資料から読み取ったことを基に、本単元で解決したいことを子どもの問いを基に設定

2/7 時間目 板書

3 第6学年の実践－重点（1）に関わって－

No.12

予想を考える場



予想の共有

2/7 時間目 板書

学習問題を解決するための視点の設定

3 第6学年の実践－重点（１）に関わって－

No.13

視点を踏まえ、一人一人が学習課題を設定**戦い方**

・鉄砲などの秘密兵器を使って勢力を広げたと思う。だから、どのような道具や戦法を使ったのかについて調べる。（A児）

外国とのかかわり

・外国とのかかわりを強めたと思う。だから、どのようなことをしてかかわりを強め、国の発展につなげたのか調べる。（B児）

政治

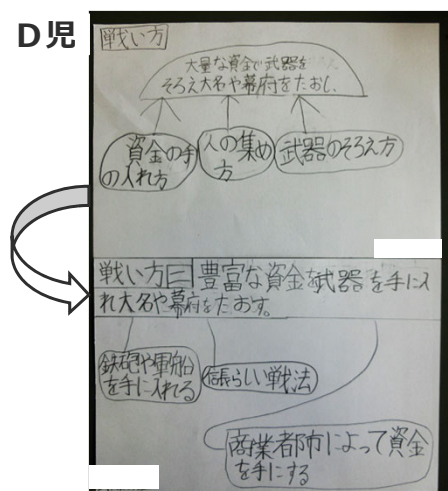
・自分の役職や権力を使って勢力を広げたと思う。だから、政治の仕組みなどを調べる。（C児）

3 第6学年の実践－重点（１）に関わって－

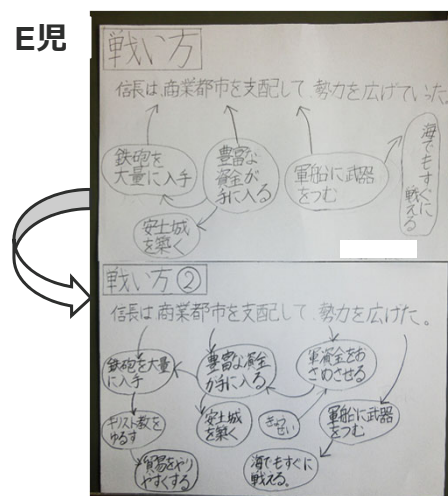
No.14

考えの修正－クラゲチャートの活用－

D児



E児

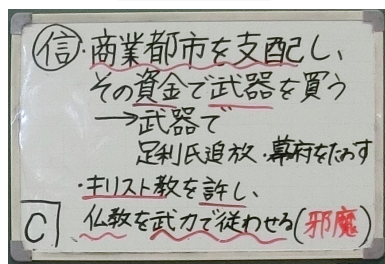


3 第6学年の実践－重点（２）に関わって－

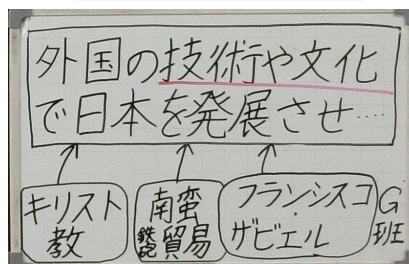
No.15

同じ課題ごとの情報交換①

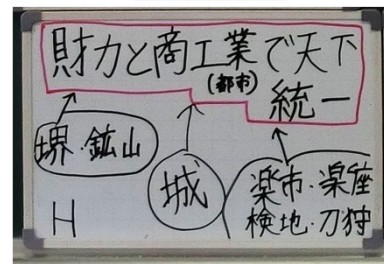
戦い方



外国との関わり



政治



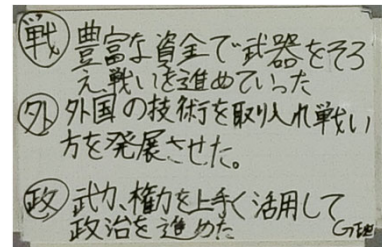
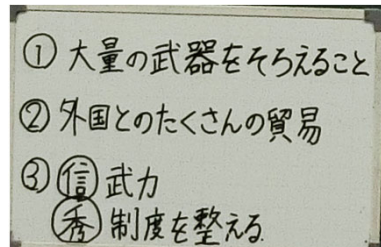
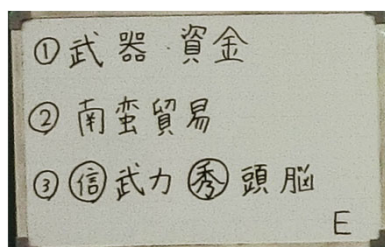
3人で情報交換し、学習問題についての考えとそれを支える根拠を整理

3 第6学年の実践－重点（２）に関わって－

No.16

異なる課題ごとの情報交換②

①戦い方 ②外国との関わり ③政治



3人で情報交換した上で、各視点ごとにキーワードを整理


3 第6学年の実践－成果と課題－

No.17

成果

・学習問題の解決のために，学習課題を追究する姿が見られた。
⇒根拠を増やす・根拠をつなげる

・複数の視点を関連付けて考える姿が見られた。
⇒戦での鉄砲活用⇔商業都市の支配
仏教勢力を武力で制圧⇔キリスト教の保護



**大きな「選択・決定」の場の設定や視点を変えた情報交換の活動は省察する上で有効
(個と協働的な学びの往還)**

3 第6学年の実践－成果と課題－

No.18

課題

・自分の学びの状況を見つめる力の高め方
⇒考えやそれを支える根拠の妥当であるか，
曖昧な部分はないかなど，
振り返ることができるようにするための手立て

・調べ活動での不足を補うための手立て
⇒子どもの調べ活動では補いきれない学習内容を
単元を展開する中で，いつ，どのように取り上げるのが
効果的であるのか。

参考文献

- ・資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書 1 ～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～ プロジェクト研究「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究」研究代表者 高口努 2015 国立教育政策研究所
- ・自治体との連嶺による協調学習の授業づくりプロジェクト 協調学習 授業デザインハンドブックー知識構成型ジグソー法を用いた授業づくりー 三宅ほなみ他 2015 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構
- ・澤井洋介の社会科の授業デザイン 澤井洋介 2015 東洋館出版
- ・見方・考え方「社会科編」澤井洋介 加藤寿朗 2017 東洋館出版
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会化授業づくり 北俊夫 2018 明治図書出版

令和 2 年 9 月 23 日

令和 2 年度

算数部研修会 実践発表 I

算数科における
自律した学習者を育てる学習プロセス
ー 1 年生の実践 ー

松橋 純子

1 年生の実態

- ・全ての平仮名を全員の子どもが書けるというわけではない。
- ・集団で学習するという経験がなく、学ぶ、学び合うということを理解していない。(学習のルール、進め方)
- ・ノートの使い方を理解していない。
- ・発表は分かっている人が手を挙げてすることだと思っている。
- ・たし算、ひき算を知っていると思っている子どもがほとんどである。
- ・日常生活の中で無意識に算数を用いている。

1 年生への支援

- ・学習のルール大切さを教え、習慣化させる。
- ・「学ぶ」「学び合う」とはどういうことなのかを実際の授業の中で捉えることができるように教える。
- ・全員がノートを取ることができるような支援をする。
- ・発表するということに対する考え方を確かめる。
- ・問題を解決する方法がいろいろあるということを経験する場を設ける。
- ・日常生活の中に算数を活用してきた場面があることに気付くことができる支援をする。

算数の研究との関連から 1 年生の子どもたちへの支援を考えると

研究の重点

- (1) 新たな問題発見につなぎ、数学のよさを実感できる単元構成
 - ・日常生活の場面から算数を見つける導入。
 - ・解決方法を選択して解決するためのスキルの習得。
 - ・学んだことを生活の中で活用する場。
- (2) 統合的・発展的な思考を促す省察の工夫。
 - ・めあての立て方。
 - ・よりよい解決方法を選択する場。
 - ・学習問題と似ている問題を考える場。

今まで学習した単元

いくつかの 数の理解(数え方, よみ方, 書き方, 順序)

なんばんめ 集合数と順序数

いまなんじ 何時と何時半

いくつといくつ 10までの数の合成分解

ぜんぶでいくつ 増加と合成, 異種の量の加法適用問題

のこりはいくつ 求算, 求補, 異種の量の減法適用問題

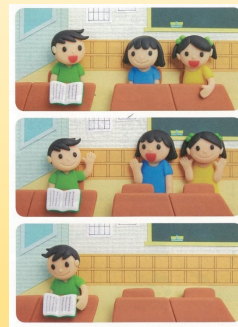
どれだけおおい 求差

日常生活の場面から算数を見つける導入

日常生活の場面を示している絵 → 算数の問題



ぜんぶでいくつ



のこりはいくつ

解決方法を選択して解決するためのスキルの習得

選択するための方法の習得 ～ ぜんぶでいくつ ～

- ・指
- ・ブロック
- ・おはじき
- ・鉛筆でのチェック
- ・図
- ・式

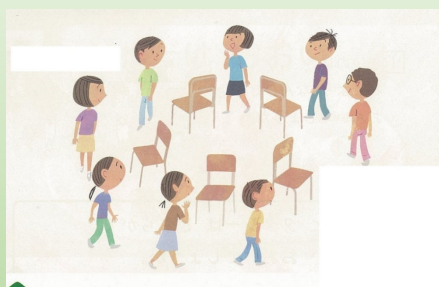


問題解決の見通し

学習対象との
出会い

実際の授業 ～どれだけおおい～

<重点1>
数学の問題を
見いだすための省察



C: いす取りゲームだ。
C: やったことある。
T: どんなゲーム？
C: いすが1個足りない。
C: こどもが座れなくなる。
T: え？みんな座れないの？
C: 同じ数だとゲームでない。
T: それは、いすと子どもの数が…
C: 違うってことよ。
T: それを数の違いっていうよ。

1. めあて

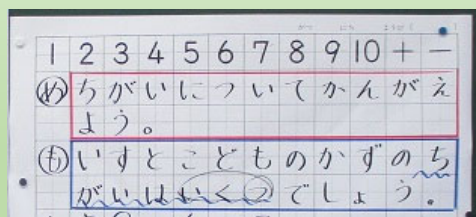
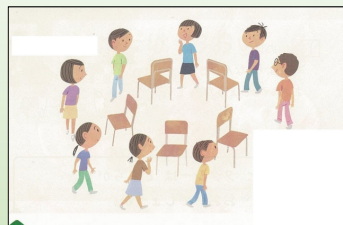
子どもたちの言葉を用いながらめあてを立てる。

2. 学習問題

子どもたちと問題をつくる

〈今までの問題〉

- ・いちごとぶどうではいちごは何個多い？
- ・バスと車どちらが何台多い？



いすとりゲーム
 人 → にん
 いす → こ
 人 9にん
 いす 6こ

いすとりゲーム
 人 → にん
 いす → こ
 人 9にん
 いす 6こ

同じ単位



二つの単位



「いくつ」は便利

3. 見通し



<重点1>

問題を解決していくための方法の選択

今まで学んだ方法の中で
この問題に使うことができそうな
解決方法を問う。



4. 自分との「対話」

5. 仲間との「対話」



<重点1・2>

数学的なよさを見いだす「対話」

教師の支援・・・話合いの可視化



6. 適切な解決方法の選択

T:これからどの考えを使いたいの?



ノートに決まった方法を書く。





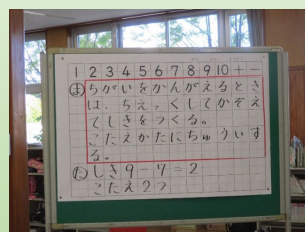
7. まとめ

教師の支援

板書にまとめにしたいキーワードを残す。

<重点2>

新たな知識の再構築



めあてとの「対話」

8. 適用問題, 学習問題と似ている問題を考える。

- 適用問題を提示する場合 ○ 考えさせることができる場合

例えば

$$5-5=0$$

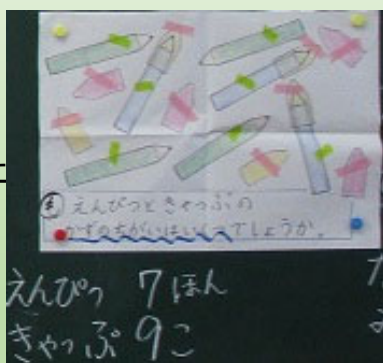
まとめ

同じ数から同じ数をとると0

なる。

<重点2>

新たな知識の再構築と活用



9. 学んだことを生活の中で活用する場

<重点1・2>

新たな問題場面や
日常生活への活用

- 教師が活用場面を見せる。

なんばんめ

「前から○番目の人, ノートを持ってきて。」

「前から4人立って。マットを運ぶよ。」

ぜんぶでいくつ

「いいね玉。1年生みんなで何個入ったかな。」

「折り紙, 始めに2枚渡すね。みんなと一緒に活動してから
その後, 自分で考えてできるように3枚渡すね。」

- 教師が子どもの活用場面を見つけて教える。

今後の課題

- 問いの整理の仕方
- より良い考えの選択の仕方
- 日常生活の場面で算数を自覚させるための支援(顕在化)

参考文献

- ・佐藤学(2019)、「統合的・発展的に考える授業への転換」,新しい算数研究5月号, 東洋館出版社.
- ・松橋純子(2019)、「授業のゴールは次への問い」, 新しい算数研究5月号, 東洋館出版社.
- ・文部科学省(2018), 小学校学習指導要領解説算数編, 日本文教出版社.

令和2年9月23日

自律した学習者を育てる 令和2年度 2学期までの取り組み

高橋 裕和

算数科研究の重点

(1) 新たな問題発見につなぎ、数学のよさを実感できる単元構成の工夫

(2) 統合的・発展的な思考を促す省察の工夫



自ら選択・決定する学習活動を位置付けた
子どものパフォーマンスを評価する課題

子どものパフォーマンスを評価する課題を導入した単元

「分数と整数のかけ算，わり算」
 「対称な図形」
 「分数のかけ算」
 「分数のわり算」
 「円の面積」
 「データの見方」

～子どものパフォーマンスを評価する課題とは～

リアルな文脈の中で知識やスキルを応用・総合しつつ，使いこなすことを求める課題

本単元で学習する内容を駆使し，筋道を立てて考え，見通しをもって解決に向かうことができる課題



魅力ある課題
子どもの実態に応じた挑戦しがいのある課題

【引用・参考文献】

問題解決能力を高める算数科学習指導の工夫に関する研究
 ～パフォーマンス課題を活用した授業づくり～ 研究調査報告
 第390集 四日市市教育委員会教育支援課

～子どものパフォーマンスを評価する課題作成について～

- ①思考のプロセスを表現することを要求
- ②多様な表現方法(式, 言葉, 図, 絵など)が使える。
- ③真実味のある現実世界の場面を扱い, そこから数学化するプロセスを含んでいる。
- ④「有用性・発展性・創造性・実行性」を重視し, 評価したい能力が表れるよう課題。

【引用・参考文献】

問題解決能力を高める算数科学習指導の工夫に関する研究
～パフォーマンス課題を活用した授業づくり～ 研究調査報告
第390集 四日市市教育委員会教育支援課

～子どものパフォーマンスを評価する課題例～「分数と整数のかけ算わり算」

【課題】○人分のうまいカレーを作れ！

今度の日曜日、私(さくら)の家族と友達のかずみさんの家族でキャンプに行きます。そこで、私たちが、カレーを作ることにしました。

お母さん：「さくら。おいしいカレーを作てね。」

さくら：「うん。」

お父さん：「たまねぎ、にんじん、じゃがいもは、かならず入れてくれよ！」

さくら：「うん。でも、材料はどれだけ必要なんだろう。」

お母さん：「カレーの箱に、材料の分量が書いてあるから。それを見て準備すればいいのよ。今は、作り方も書いてあるし、とっても便利だわ！」
「材料は買ってあるから、あとは、正しい分量を準備してね。」
「分量が分かったら、お母さんに教えてね。」

【ふくろハーモニーカレー(4人分)】

材料	分量	材料	分量
○ルー	1箱200g	○たまねぎ	2個
○肉	300g	○にんじん	3本
○水	5L	○じゃがいも	3個
○サラダ油	大さじ1ばい		

さくら：「カレーに書いてある分量を準備すればいいね。」

かずみ：「えっ？それじゃ足りないよ。だって、さくらさんの家は、5人家族で、私の家は、4人家族でしょ。」

①さくらさんたちは、何人分の分量を用意すればいいのでしょうか？

②さくらさんたちは、必要な分量を求める計算をはじめました。



$$\frac{3}{4} \div 4 = \frac{3}{16}, \quad \frac{3}{16} \times 9 = \frac{27}{16} = 1 \frac{11}{16}$$

さくらさんたちが計算した答えの $\frac{27}{16} = 1 \frac{11}{16}$ は、何の量を表していますか。

③さくらさんたちが、カレーをつくるのに必要な、それぞれの材料の必要な分量を求めましょう。また、お母さんに、必要な材料をメモに書いて伝えましょう。

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力 人間性

単元構成

課題との出会い

解決に必要な
知識・技能, 学習方略
思考・判断・表現力の
獲得

課題の解決

～子どものパフォーマンスを評価する評価規準表～「分数と整数のかけ算わり算」					
02「分数の乗除」【パフォーマンス課題ルーブリック】					
	設問	評価規準			
		A ⁺	A	B	C
知・技	①②		3/16 が表している分量の意味を理解し、順序立てて答えている。	問題の意味を把握して、聞かれていることに答えている。	題意が読み取れず、何を求めればよいのかを理解していない。
	②③		解を導くために必要な計算を、一人分の分量を求めてから順序立てて正しく計算している。	解を導くために必要な計算が正しくできている。	解を導くための計算に誤りがある。
思・判・表	③	考え方（プロセスと答え）が数式や言葉などを使ってきちんと書かれており、しかも、材料や分量についての根拠が十分に説明されている。 （S） 目的に応じて柔軟に考え、表現している。	考え方（プロセスと答え）が数式や言葉などを使って、相手に分かるように整理して説明されている。	相手に何の材料がどの程度必要なかを計算の結果をもとに説明している。	メモをしているが、相手に伝える説明に部分的な欠落がみられる。
学びの力	①②③ 振り返り	自らの取り組み状況を把握し、解決の仕方について、めあてにもどりながら試行錯誤するなど、自らの学習を調整、修正しながら、取り組んでいる。	最後まで自分の力で粘り強く解決し、自分の取り組み方や解決方法を振り返りながら解決しようとしている。	最後まで自分の力で粘り強く解決しようとしている。	最後まで自分の力で解決しようとしていない。
	振り返り	数学のよさに気づき、他の単元や生活と結びつけて考えたり、発展的に考えたりして、学習したことを生活や学習に進んで生かそうとしている。	数学のよさに気づき、学習したことを生活や学習に生かそうとしている。		

～子どものパフォーマンスを評価する評価規準表と課題のつながりについて～																								
課題	設問	評価規準																						
		A ⁺	A	B																				
<p>【課題】○人分のうまいカレーを作れ！</p> <p>今度の日曜日、私（さくら）の家族と友達のかずみさんの家族でキャンプに行きま す。そこで、私たちが、カレーを作ることになりました。</p> <p>お母さん：「さくら。おいしいカレーを作てね。」 さくら：「うん。」 お父さん：「たまねぎ、にんじん、じゃがいもは、かならず入れてくれよう！」 さくら：「うん。でも、材料はどれだけ必要なんだろう。」 お母さん：「カレールーの箱に、材料の分量が書いてあるから、それを見て準備す ればいいのよ。今は、作り方も書いてあるし、とっても便利だわ！」 「材料は買ってあるから、あとは、正しい分量を準備してね。」 「分量が分かったら、お母さんに教えてね。」</p> <table border="1"> <caption>【ふぐくハーモニーカレー（4人分）】</caption> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>分量</th> <th>材料</th> <th>分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ルー</td> <td>1箱200g</td> <td>○たまねぎ</td> <td>2個</td> </tr> <tr> <td>○肉</td> <td>300g</td> <td>○にんじん</td> <td>3本</td> </tr> <tr> <td>○水</td> <td>5L</td> <td>○じゃがいも</td> <td>3個</td> </tr> <tr> <td>○サラダ油</td> <td>大さじ1ばい</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>さくら：「カレールーに書いてある分量を準備すればいいね。」 かずみ：「えっ？それじゃ足りないよ。だって、さくらさんの家は、5人家族で、 私の家は、4人家族でしょ。」</p> <p>①さくらさんたちは、<u>何人分の分量を用いればよいのでしょうか？</u></p> <p>②さくらさんたちは、必要な分量を求める計算をはじめました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> $\frac{3}{4} \div 4 = \frac{3}{16}, \quad \frac{3}{16} \times 9 = \frac{27}{16} = 1 \frac{11}{16}$ </div> <p>さくらさんたちが計算した答えの $\frac{27}{16} = 1 \frac{11}{16}$ は、<u>何の量を</u>求めていますか。</p> <p>③さくらさんたちが、カレーをつくるのに必要な、それぞれの材料の必要な分量を求めま しょう。また、お母さんに、必要な材料をメモに書いて伝えましょう。</p>	材料	分量	材料	分量	○ルー	1箱200g	○たまねぎ	2個	○肉	300g	○にんじん	3本	○水	5L	○じゃがいも	3個	○サラダ油	大さじ1ばい			<p>知・技</p> <p>①②</p> <p>②③</p>	<p>思・判・表</p> <p>③</p>	<p>学びの力</p> <p>①②③ 振り返り</p> <p>振り返り</p>	<p>3/16 が表している分量の意味を理解し、順序立てて答えている。</p> <p>解を導くために必要な計算を、一人分の分量を求めてから順序立てて正しく計算している。</p> <p>考え方（プロセスと答え）が数式や言葉などを使ってきちんと書かれており、しかも、材料や分量についての根拠が十分に説明されている。 (S) 目的に応じて柔軟に考え、表現している。</p> <p>自らの取り組み状況を把握し、解決の仕方について、めあてにもどりながら試行錯誤するなど、自らの学習を調整、修正しながら、取り組んでいる。</p> <p>数学のよさに気づき、他の単元や生活と結びつけて考えたり、発展的に考えたりして、学習したことを生活や学習に進んで生かそうとしている。</p>
材料	分量	材料	分量																					
○ルー	1箱200g	○たまねぎ	2個																					
○肉	300g	○にんじん	3本																					
○水	5L	○じゃがいも	3個																					
○サラダ油	大さじ1ばい																							

有用性
発展性

創造性
実行性

～子どもの取り組みと教師のフィードバックについて～

① 9人分
② 人参の分量(9人分)
③ ルー $200 \div 4 = 50$ $50 \times 9 = 450$
肉 $300 \div 4 = 75$ $75 \times 9 = 675$
水 $\frac{5}{4} \div 4 = \frac{5}{16}$ $\frac{5}{16} \times 9 = \frac{45}{16} = 2\frac{9}{16}$
サラダ油 $1 \div 4 = 0.25$ $0.25 \times 9 = 2.25$
玉ねぎ $2 \div 4 = 0.5$ $0.5 \times 9 = 4.5$
人参 $\frac{3}{4} \div 4 = \frac{3}{16}$ $\frac{3}{16} \times 9 = \frac{27}{16} = 1\frac{11}{16}$
じゃがいも $\frac{3}{2} \div 4 = \frac{3}{8}$ $\frac{3}{8} \times 9 = \frac{27}{8} = 3\frac{3}{8}$

メモ
ルー 450g
肉 675g
水 約3L
サラダ油 大さじ約2は半分
玉ねぎ 4個と半分
人参 約2個
じゃがいも 4個と約半分

④ も少し整理して、分かりやすく書きたいです。

よしと表現堂!

それぞれの材料の分量を順序立てて計算。

材料の分量を相手に分かりやすくメモ。概数を使った表現。

粘り強い取り組み。自分の表現方法の振り返り。

～子どもの取り組みと教師のフィードバックについて～

⑤ ルー $200 \div 4 \times 9 = 450$
肉 $300 \div 4 \times 9 = 675$
水 $\frac{5}{4} \div 4 \times 9 = \frac{45}{16} = 2\frac{9}{16}$
玉ねぎ $2 \div 4 \times 9 = \frac{9}{2} = 4\frac{1}{2}$
人参 $\frac{3}{4} \div 4 \times 9 = \frac{27}{16} = 1\frac{11}{16}$
油 $1 \div 4 \times 9 = \frac{9}{4} = 2\frac{1}{4}$

(メモ)
ルー : 450g
肉 : 675g
玉ねぎ : 4個と半分
人参 : 1本と約半分
じゃがいも : 3個と約半分
水 : 2.7L
サラダ油 : 2さじ

⑥ 私だ、たらどうすれば分かりやすいかなと考へて、 $\frac{5}{16}$ は小数にしたり、 $\frac{3}{8}$ は数にしたり、水と油を分けたりしてみました。

水は目盛りから、小数で表すのがわかりやすいかな
大さじは、細かな表で表すのがわかりやすいかな

それぞれの材料の分量を順序立てて一本の式に表し、正しく計算。

材料の分量を相手に分かりやすく整理してメモ。数が大きい分数を概数で表現。言葉で分かりやすく表現。材料によって小数で伝えるなど数を選択。

粘り強い取り組み。自分だったら...と考えながらメモ。

～子どもの取り組み(振り返り)～

② $\frac{11}{20}$ とかをだいたいで表すと $\frac{1}{2}$ に $\frac{20}{10} = 2$ $\frac{1}{10}$ かなって自分でも分かりやすいから生活の場面でも分数を四捨五入して生かしていきたいと思います。

分かりにくいのは、~~お~~い数にしたので分かりやすくできた。多くしても大じょうぶそうなのは多くしたりでえらんだのもある。でそれも良かった。材料はお、分量は

③ 整数や小数で表したときはよかったけれど、~~お~~分数で表したときは分母が大きかったりして分かりにくかった。今度は約など使いたい。

～子どもの取り組み(振り返り)～

④ 分数を使って計算することはすごく便利だった。便利だからといって、生活につなげるときに、~~お~~使うと分かりづらくなる。~~お~~工夫して、分かりやすく使いたい。また、~~お~~その場、状況をやせていに合わせるように。

⑤ 実際に使う時は、 $\frac{1}{2}$ だと、きりが悪いので、~~お~~よその量にすると分かりやすいかなと思いました。

⑥ 分かりやすくするために切り上げなどをした次はもっと相手のことを考えた。

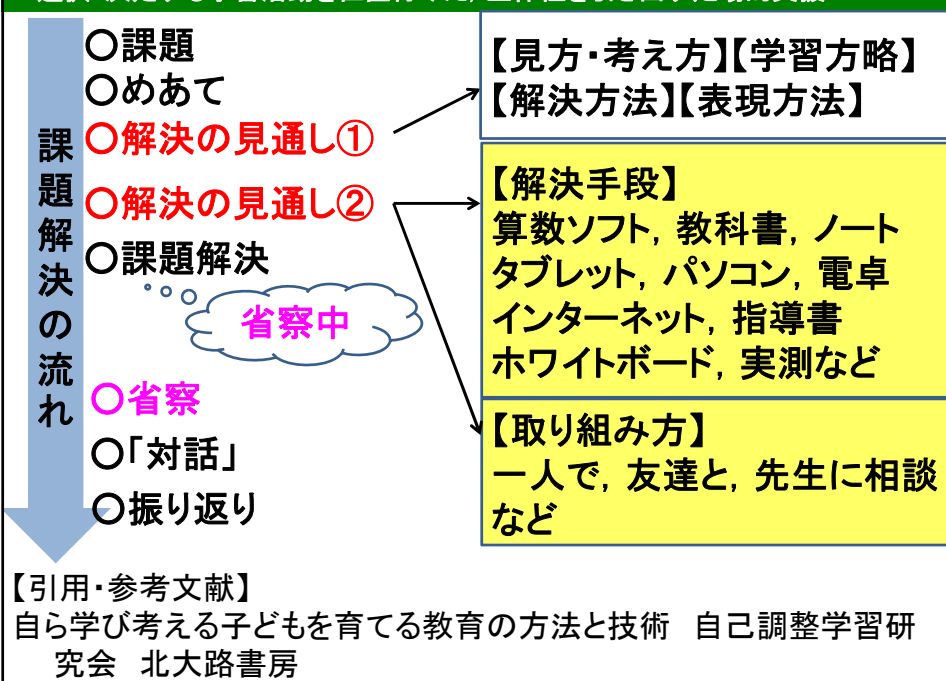
～真実味のある文脈から子どものパフォーマンスを評価する課題について～

- ・他単元とのつながり
- ・目的意識, 相手意識をもてるような課題設定



「数学のよさ」を実感
「統合的・発展的な思考」を促す

～選択・決定する学習活動を位置付けた, 主体性を引き出す足場の支援～



～子どもが「選択・決定」「省察」している具体的な取り組み例～

6年「データの見方」最終課題

【レベル1】学年代表を決めよ！

学年対抗の8の字とびを行います。そこで、6年生が優勝するために、本番でよい記録が出そうな組を決めます。1組と2組のどちらの組を学年代表にするかよいでしょうか。



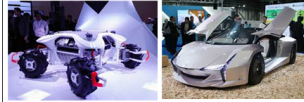
8の字とびの記録

組	回数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1組		205	228	212	262	335	220	310	361	405	357
2組		288	295	305	264	270	316	322	283	286	275

【レベル3】経営者として決断せよ！

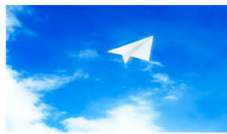
10年後の2030年に開催されるモーターショーで、新たな自動車を開発します。

経営者として「より多く売上を上げる」ことを目的として、どの世代にターゲットをしばって開発しますか？必要なデータを集めて、データを整理し、分けて、結論をまとめましょう。その際、グラフを根拠にしてまとめましょう。



【レベル2】学年代表を決めよ！

学年対抗の紙飛行機大会を行います。そこで、6年生が優勝するために、本番でよい記録が出そうな組を決めます。1組と2組のどちらの組を学年代表にするかよいでしょうか。



紙飛行機A			
回数	記録	回数	記録
1回目	8 m	5回目	9 m
2回目	2 m	6回目	7 m
3回目	2 m	7回目	7 m
4回目	7 m	8回目	3 m

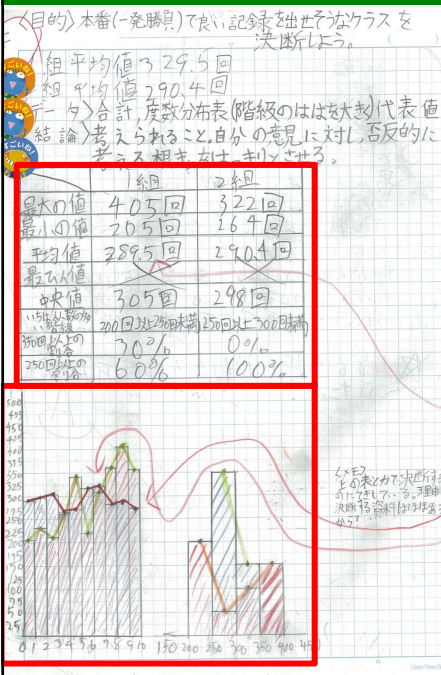
紙飛行機B			
回数	記録	回数	記録
1回目	4 m	5回目	7 m
2回目	6 m	6回目	6 m
3回目	7 m	7回目	5 m
4回目	6 m	8回目	6 m

【レベル4】身のまわりのデータを活用せよ！

自分でテーマを決めて、

「①テーマを見つける→②計画を立てる→③データを集めて整理する→④分けてみる→⑤結論をまとめる」の順に、目的に沿って結論をまとめましょう。その際、グラフを根拠にしてプレゼンしましょう。

～子どもが「選択・決定」「省察」する具体的な取り組み例～



翔太

6年「データの見方」最終課題

【レベル1】学年代表を決めよ！

学年対抗の8の字とびを行います。そこで、6年生が優勝するために、本番でよい記録が出そうな組を決めます。1組と2組のどちらの組を学年代表にするかよいでしょうか。



8の字とびの記録

組	回数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1組		205	228	212	262	335	220	310	361	405	357
2組		288	295	305	264	270	316	322	283	286	275

結論は1組だと思ひます。

今まで習ったことを使ひて根拠をはきりせ決断しよう。

1つ目の理由が2組は全体的に見て、記録が下がっているというか、差があること。1組は終りに近づいて記録が落ちていくから、1組は残り少ないというところから、本番でも良い記録が出るということ。あと、④までの本番、1組は405〜409で、48〜49から本番は約309になるかと考えた時、2組は286〜295になるから約264に783とかあるから、

～子どもが「選択・決定」「省察」する具体的な取り組み例～

① 年齢別度数分布グラフから読み取れる情報は？
 ② 40～45才が男女合わせると、一番多い年齢は？
 ③ 20～25才、30～35才には高齢者が多いからでは？

(度数分布表)

年齢(歳)	1組	2組
20～25	4	0
25～30	1	1
30～35	2	3
35～40	2	
40～45	1	
合計	10	10

④ このデータを見ると、決定している2組の方が勝方だと思ふ。だが、先ず、このデータも考えれば、成長率の高い1組の方が先ず勝つと見えてくる。これは、上昇率にも注目して、考えていかねければならない。と、彼らは、
 ⑤ 早速、このデータから、大印のデータを、
 ⑥ 対話室

⑦ 目的)本書で、よい記録を出せそうなのを、
 ⑧ 今までの学習、にこの結果を、
 ⑨ 3年「データの見方」最終課題

【レベル1】学年代表を決めよう！
 学年対抗の8の字とびを行います。そこで、6年生が優勝するために、本書でよい記録が出そうな組を決めます。1組と2組のどちらの組を学年代表にするかよいでしょうか。

8の字とびの記録

組	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1組	205	228	212	262	335	220	310	361	405	357
2組	288	275	305	264	270	316	322	283	286	275

最大の値 405 回(1組) 222 回(2組)
 最小の値 205 回(1組) 264 回(2組)
 <ドットプロット>

～教師側の課題と改善点～

△課題

△実態に応じた課題の難易度

△課題のパターン化

△課題作成と評価に時間を費やす

△タブレット端末の確保

☆改善点

☆課題を複数用意し、選択して取り組む

☆他教科書やテストの活用

☆他の単元でも活用できるルーブリック作成

☆単元の精選

☆時間をずらして調整

～学習者側の課題と改善点～

△課題

△主体性の持続

△実行性

△仲間のアイデアに
すぐ頼ってしまう

☆改善点

☆単元の途中にミニ課
題を取り入れる☆実行可能な課題を
計画的に実施☆状況に応じた省察
の場を取り入れる
☆個の時間の確保

【引用・参考文献】

- ・石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは ―コンピテンシー・ベースのカリキュラの光と影―』 日本標準
- ・西岡加名恵(2006)「目標に準拠した評価」のためのポートフォリオの活用に関する国際比較調査―パフォーマンス課題とルーブリックの開発を中心に―『「カリキュラム設計」への招待―「逆向き設計」で「確かな学力」を！―』京都大学大学院教育学研究科 教育方法学講座・教育方法研究室
- ・徳島祐彌(2018)「小学校算数科におけるパフォーマンス評価の共同研究」『教育方法の探究』・自己調整学習 理論と実践の新たな展開へ 自己調整学習研究会 北大路書房
- ・自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術 自己調整学習研究会 北大路書房
- ・問題解決能力を高める算数科学習指導の工夫に関する研究 ～パフォーマンス課題を活用した授業づくり～ 研究調査報告 第390集 四日市市教育委員会教育支援課
- ・算数の本質に迫る「アクティブ・ラーニング」 新算数教育研究会

理科、生活科における自律した学び につながる「省察」の実践



秋田大学教育文化学部附属小学校

生活科
理科部

稲垣 勇介
村上 宙思
福田 佳子
清水 琢

生活科における**自律した学習者**

自分の思いや願いをもって対象
と関わり続け、対象や自分自身へ
の気づきを深めている姿



生活科部 昨年度までの成果と課題

成果 思いや願いに基づいた学習活動
省察の繰り返し位置付け
友達の困り事に向き合う場の設定

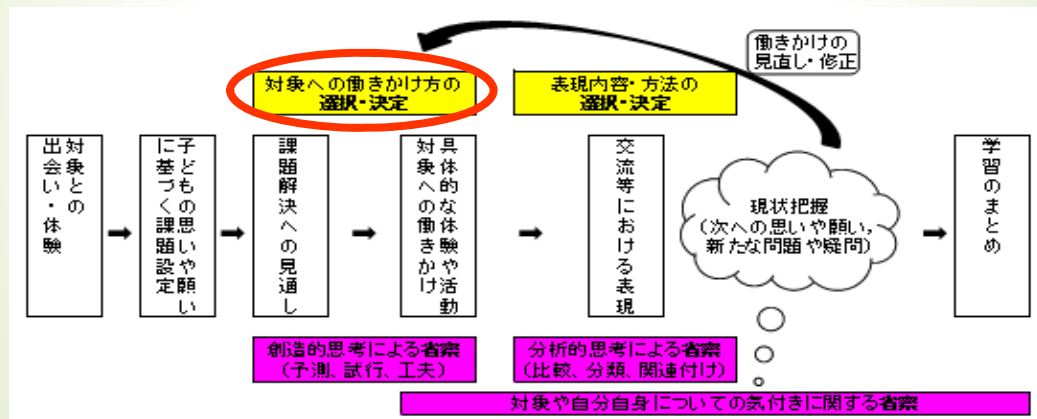
課題 思いや願いを大切にしながら，自ら追究していく子どもを育てる単元構成の在り方

生活科部研究テーマ

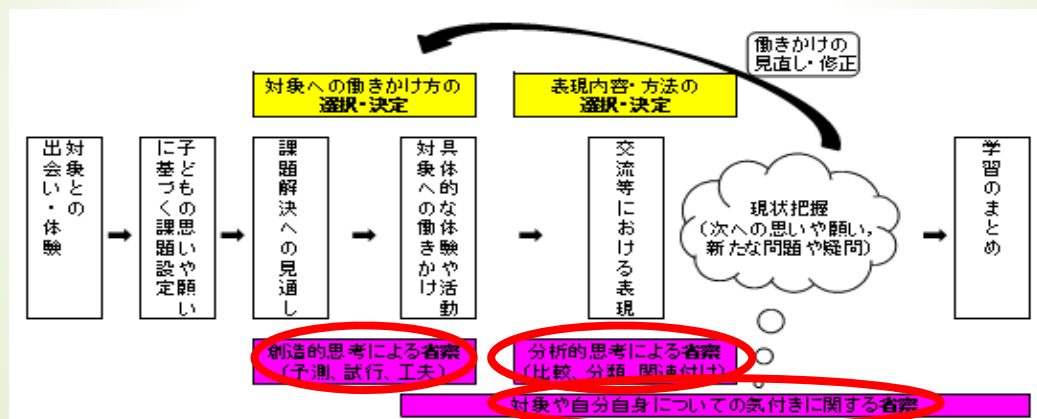
対象に主体的に関わり続けながら，
気づきを深めていく子どもを
育む学び

- 重点1 自らの思いや願いを基に，対象や対象への働きかけ方を
選択・決定できる単元構成の工夫
- 重点2 身近な生活に関わる「見方・考え方」を生かし，関わる
対象と自分の現状を把握した上で，気づきの質を高めて
いける**省察**の場の充実

重点1 自らの思いや願いを基に，対象や対象への働きかけ方を**選択・決定**できる単元構成の工夫



重点2 身近な生活に関わる「見方・考え方」を生かし，関わる対象と自分の現状を把握した上で，気づきの質を高めていける**省察**の場の充実



生活科における見方・考え方



見方

人や社会、自然などの対象と自分がどのように関わっているかという視点

考え方

創造的・・・試す、見通す、工夫する、等
分析的・・・見付ける、比べる、たとえば、
分類する、関連付ける、等



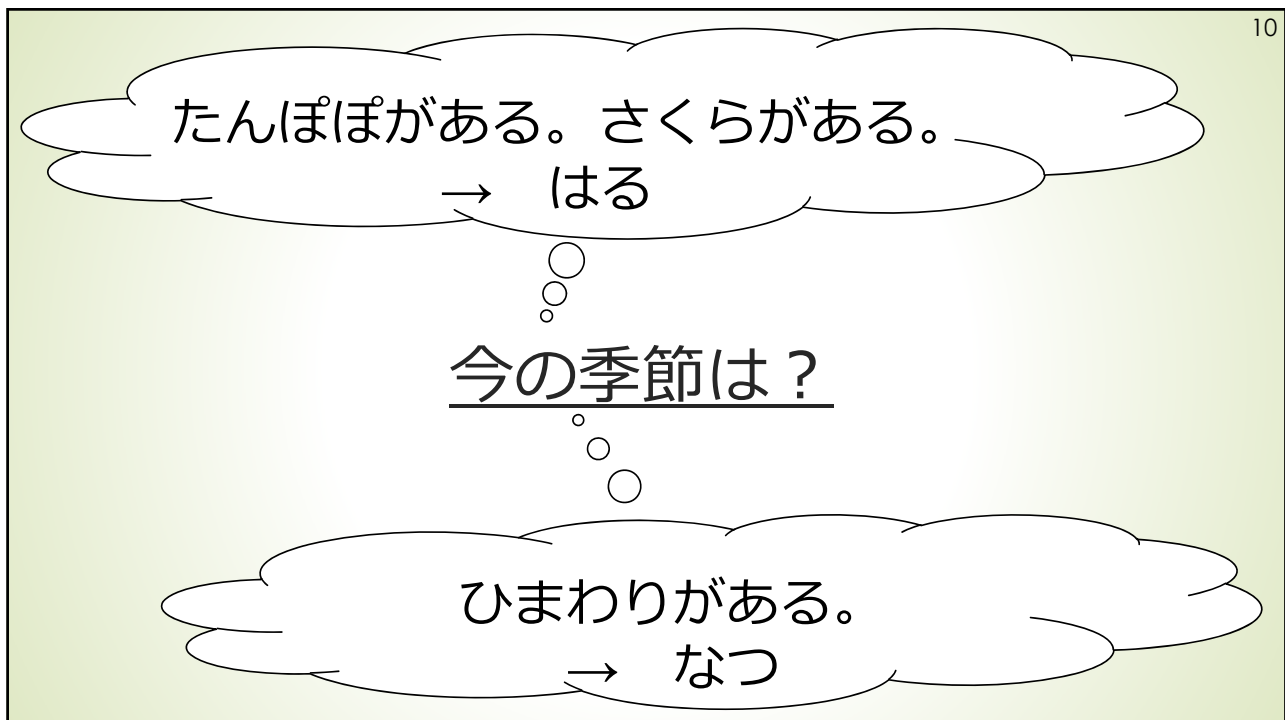
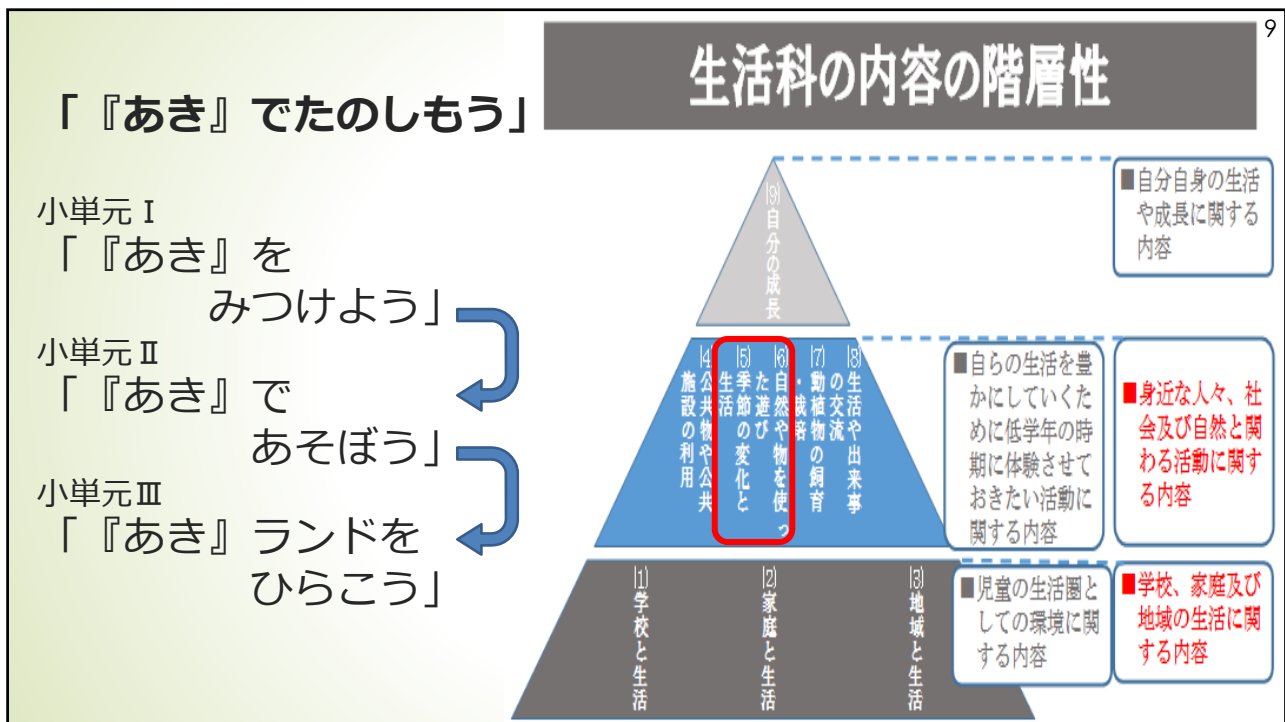
気づきの質の高まり・・・自覚化・関連付け・自分自身への気づき

実践 豊かに見方を生かし得られる気づきから、
考え方を生かした省察の充実



1年「『あき』でたのしもう」

秋田大学教育文化学部附属小学校 生活科部 稲垣勇介





すい
すいか
うみ あつ
あおぞら(はれ)
かぶと
ひまわり

あき
かれています
おわっている
おしこまれている
たおれている
きいろいすな
がはい

[illegible]

74

見方の生かし方のモデリング

13



モデリングを通したフィードバック

14



考え方を生かした省察



<比較や試行をしている場面>

きりんのあしにきゅふをつけて
すべらめたらかせ"のようなおとが"が
りきました。つきはきりんはひとが
のれるところをつけたら100てんを
とれると、おもいます。

見方

→現状把握

→見通し

見方

→比較

→現状把握

ほとくのさくひんは、見るとか、さわ
るとかしかできないけれど、
さんのさくひんは、さわるとか、あつ
とかいるんないあとかいあって、
いなくてあつきました。こんどは、

本実践の成果

1. 児童や教師のモデリングを通して、「見方」がより豊かに自覚的に。
→見方の生かし方が多様になり、気づきの質が深まった。
2. 気づきの比較から必要感のある省察に。
→夏との違いから秋への変化を捉えることができた。
→友達との違いから自分の思いや願いを見つめ直し、対象への新たな働きかけにつながった。

本実践の課題

1. 単元内での「体験活動」と「表現活動」の場の位置付け
2. 自然発生的なフィードバック
3. 子どもが自己の変容に気付くことができるようにするためのポートフォリオ的な支援の手立て

【引用・参考文献】

- ・ 小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 2018 東洋館出版社
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 東洋館出版社
- ・ 平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 生活編 田村学 2019 明治図書
- ・ 授業の腕が上がる新法則シリーズ「生活科」授業の腕が上がる新法則
谷和樹 2020 学芸みらい社
- ・ イラストで見る 全単元・全時間の授業のすべて 生活 小学校1年
田村学 2020 東洋館出版社

令和2年度 理科実践発表資料

理科部 昨年度までの成果と課題

成果 問題解決に見通しをもち、ある程度主体的に学習を進めることができる。

課題 思考が問題、単元により分断してしまい、学習の成果である科学概念を、他の単元や日常生活場面と関連づける力に欠ける。

令和2年度 理科実践発表資料

理科における **自律した学習者へ**

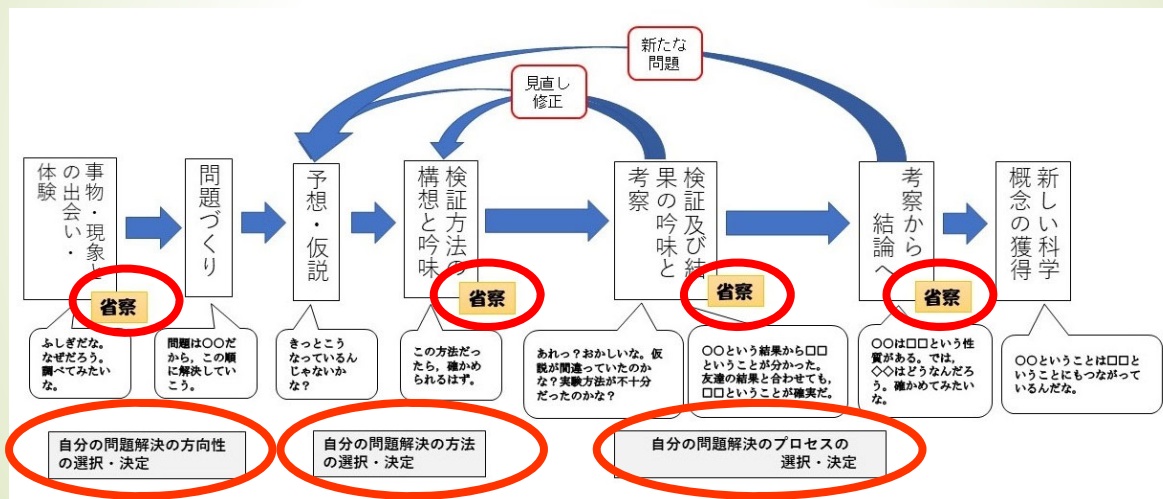


理科部研究テーマ

問題解決の流れを自ら発想し、
自然界を科学的に解明しようと
する子どもを育む学び

令和2年度 理科実践発表資料

単元内の重層的な選択・決定と省察 → 自律した学習者へ



令和2年度 理科実践発表資料

実践1 学習の個別化につながる「選択」を支える「省察」の工夫



4年「物の体積と温度」実践から

秋田大学教育文化学部附属小学校 理科部 村上宙思

令和2年度 理科実践発表資料

自律した学習者へ

一斉・統一の実験方法

実験方法の選択・決定

個別化された実験方法

主体的な学習

自分事としての学習問題

自ら考案した仮説検証方法

自分なりのまとめ

令和2年度 理科実践発表資料

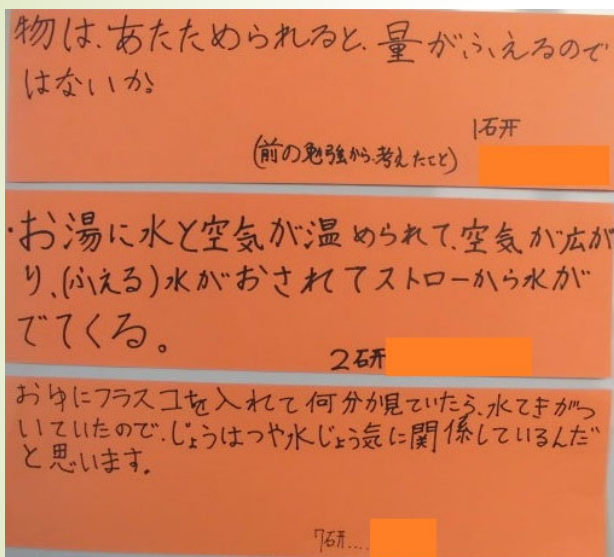
自律した学習者へ予想・仮説を吟味
するための省察**実験方法の選択・決定**検証方法を吟味
するための省察**主体的な学習**

自分事としての学習問題

自ら考案した仮説検証方法

自分なりのまとめ

令和2年度 理科実践発表資料



児童の「気づき」カードより

予想・仮説の立案（個）



予想・仮説の比較・検討（協働）

予想・仮説を吟味
するための省察

予想・仮説の修正・決定（個）



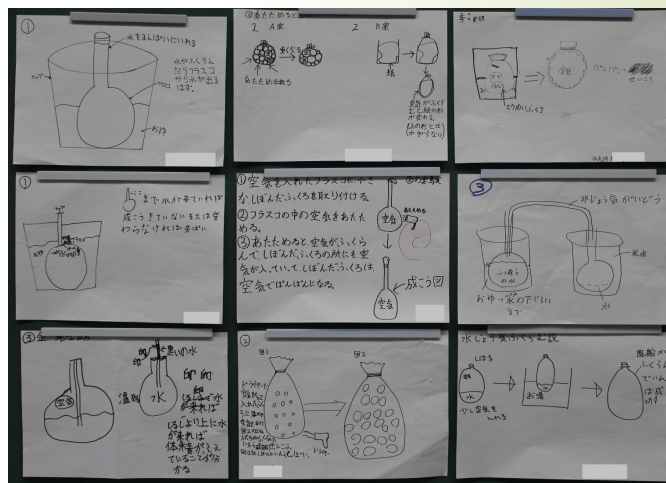
実験方法の立案（個）

令和2年度 理科実践発表資料

実験方法の立案（個）



実験方法の比較検討（協働）

実験方法の選択・決定
（個・小グループ）検証方法を吟味
するための省察

児童が提案した「実験方法」カード

令和2年度 理科実践発表資料

実験方法の立案（個）



実験方法の比較検討（協働）

検証方法を吟味
するための省察



実験方法の選択・決定
（個・小グループ）



令和2年度 理科実践発表資料

本実践の成果と課題

- 「選択」の場を設定したことで、それにつながる「省察」が充実し、主体的な個の学びにつながる「自分の問題解決」としての意識が高まった。

（ふ）今までは自分の実験計画ではなかったけど、自分の実験でできてよかった。そして、思ってた通りに成功したので次も自分で行う度は一人ひとりくんといきょうです。

令和2年度 理科実践発表資料

本実践の成果と課題

- △実験方法の吟味に科学的妥当性が欠ける。
- △他者の検証活動を取り入れ、自らの活動にフィードバックする場面の工夫が必要。

⑬実験では、目に見えるようにするのが大切だと思いました。みんなが同じ見え方、感じ方にするため、どうするかを考えないと成功しないと思います。次は、一つだけでなく、こっ(空気と水)を一緒に温めるとど、ちかよりふくらむのか調べてみたいぞす。でも、2つのちがいを見るのはおもしろいと思うのび、そこは工夫のしどころだと思います。

実践2 個と集団の学びをつなぐ省察の工夫



4年「とじこめた空気と水」実践から

秋田大学教育文化学部附属小学校 理科部 福田佳子

これまでの実践の課題

グループ単位で「検証方法の吟味と構想」「検証及び結果の吟味と考察」を行っていたため、子どもの問題解決の力を十分に育むことができなかった。



本単元は

「対話」を通して協働的な省察をしながら、個で問題解決する学習活動を展開

本単元でめざす子どもの姿

- ・ 閉じ込めた空気や水に力を加えた時の現象について，気づきや疑問を基に，問いをもつ姿。
- ・ 既習事項や生活経験をもとに，**解決の見通し**をもったり，**根拠ある予想や仮説**をもったりする姿。
- ・ **他者の考えを受け止めながら**，閉じ込めた空気・水の体積や押し返す力の変化についてそれぞれの性質を関係付けて理解し，**考えを更新**していこうとする姿。

(1) 問いをもち，解決への見通しをもつための省察

事物・現象との出会い・体験



5

事象に対する気づきや疑問を出し合う。（個→協働）



事象についての素朴な見方・考え方を追究すべき問題へと高め、解決への見通しをもつ。（協働）

これまでの生活経験、既習の学びとのつながり

解決の見通しをもつための協働的な省察

6



A児

〈学習問題〉

①空気鉄ぽうはどのような仕組みで玉がとんでいるのか？(音が出るわけも)

②水鉄ぽうはどのような仕組みで玉がとんでいるのだろうか。

③玉の個数によ、てとび方のきょりかちがうのはなぜか？

④①と②はとうめいのつつをつかえばできると思うからそれをしらべたら、③もわかるとおもいます。

これまでの学び
とのつながり
解決への見通し

(2) 検証方法を吟味・検討するための省察

自らの仮説を検証する方法を構想する。(個)

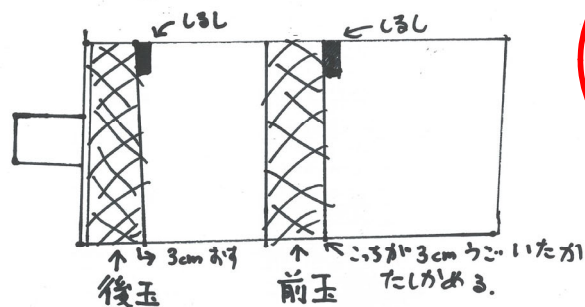


個々の検証方法を全体で共有し、吟味・検討する。(協働)



自分の検証方法を見直し、修正する。(個)

B児 おされた分説



前玉をさきに
真ん中までいれて
後玉を入れる。

ししをつける。 ししをつけて
後玉 3cm おして 前玉も 3cm 動いたら
おされた分説 だと言える。

検証方法を吟味・検討するための省察



11

B児

今日は、みんなのを見てよく分
 りました。今回は、みんなに色々
 アドバイスをもったので今度は
 自分一人でやって実証したいと思
 いました。手じゃ入るとは、あま
 り考えていなかったのを今、教えて
 もらって良かったと思いました。

自分の検証方法の修正

次の学びに生かせる教訓

12

(3) 結果の吟味と考察ための省察

自分の仮説と結果の比較

分かったこと、分からなかったことの整理 (個)



結果と考察の、共有と吟味 (協働)



- ・ 個で導き出した解の見直し, 更新
- ・ 自分の問題解決のプロセスの見直し, 修正 (協働→個)

13

C児

結果

考察 少しおしても前玉は出なかつた。

おされた分言説は反言正で半分あし
せ、しく説いたからせ、しく説でもないから空気がみ言説

少しあしても前玉は出なかつた。
おされた分言説は反言正。

半分ぐらいあし
たら 前玉が出た!

せ、しく説いたこの結果は出ないから空気がみ言説

考察 かんたんにはおしもうで前玉をおせなかつた。なせ?

し
き問

15

本実践の成果と課題

成果

- 個で問題解決する単元を構想したことで、他者の仮説や実験方法、結果に対する関心が高まった。それは、自らの問題解決について他者から適切なフィードバックを得ることにつながり、省察を促進させることができた。それによって、より質の高い追究ができるようになった。
- 協働的な学び合いの場を位置付けたことで、「対話」を通して、問いを明確にしたり、追究の見通しをもったりする姿が見られた。

課題

- 個々の取組となると、一単位時間の中で他者から即時にフィードバックを得られる子どもと得ることができない子どもが出てくる。一単位時間の中で、確実に他者からフィードバックを得ることができるような手立てが必要である。

実践3 「質的・実体的な見方・考え方」に着目し、単元の学びを見通す省察



5年理科
「目指せ！溶解ウォッチャー」



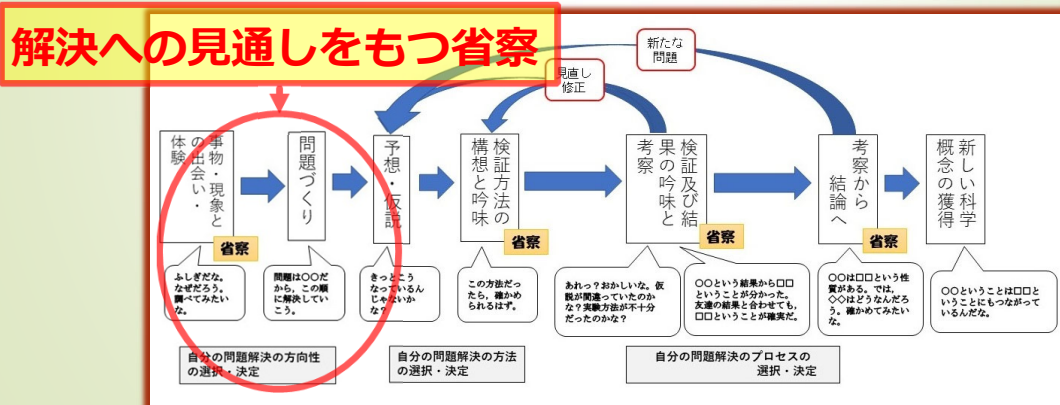
6年理科
「目指せ！溶解ウォッチMaster」

秋田大学教育文化学部附属小学校
理科部 清水 琢

「今日、何やるんですか？」



「もう始めちゃってもいいですか？」



3

自ら解決への見通しをもつ省察とするために重視したこと

○個による思考

- ・「見方・考え方」への着目
- ・一人で考える場の積み重ね



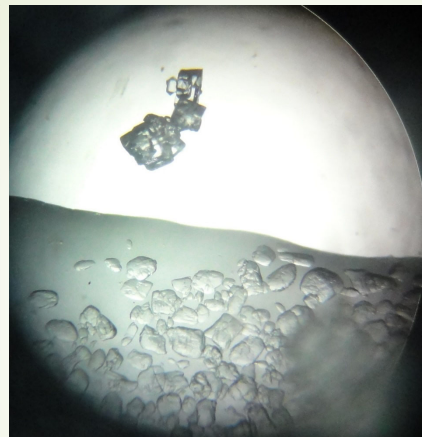
○(自ら求める)協働的なフィードバック

- ・各研究所内における協力
- ・学会における協議



4

個による思考 「見方・考え方」に着目させるために



溶ける = な~~く~~なる



「質的・実体的な見方・考え方」

小さくなって、目には見えなくなるけれど、水の中にはある

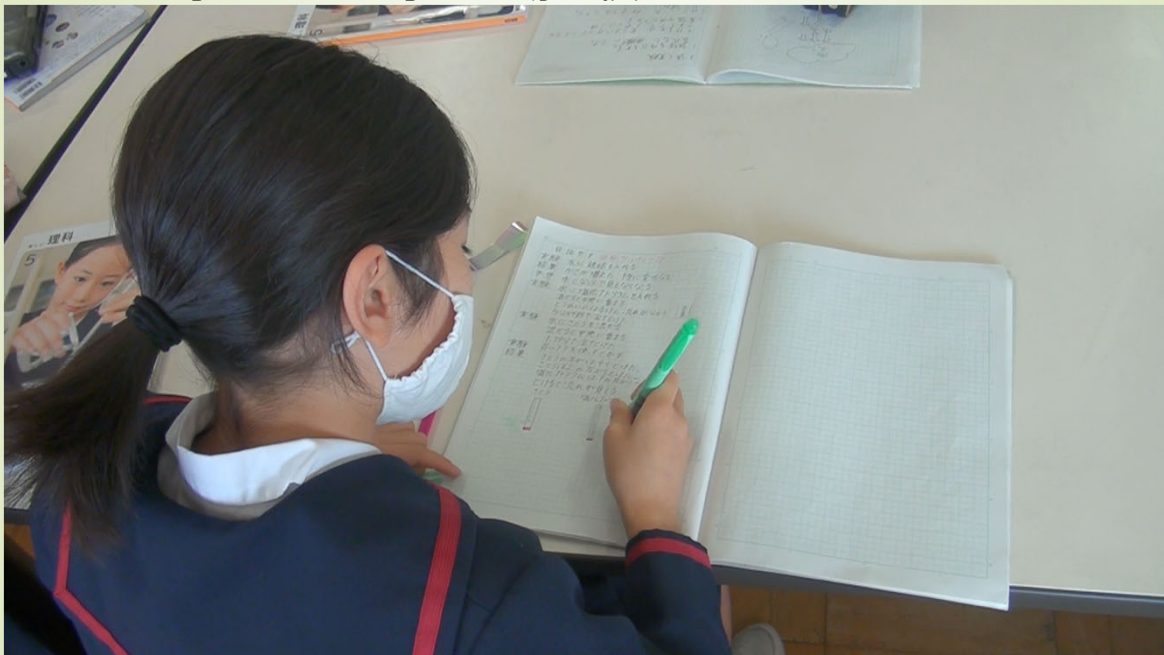
自ら求める協働的なフィードバック 各研究所における協力

5



個による思考 一人で考える場の積み重ね

6



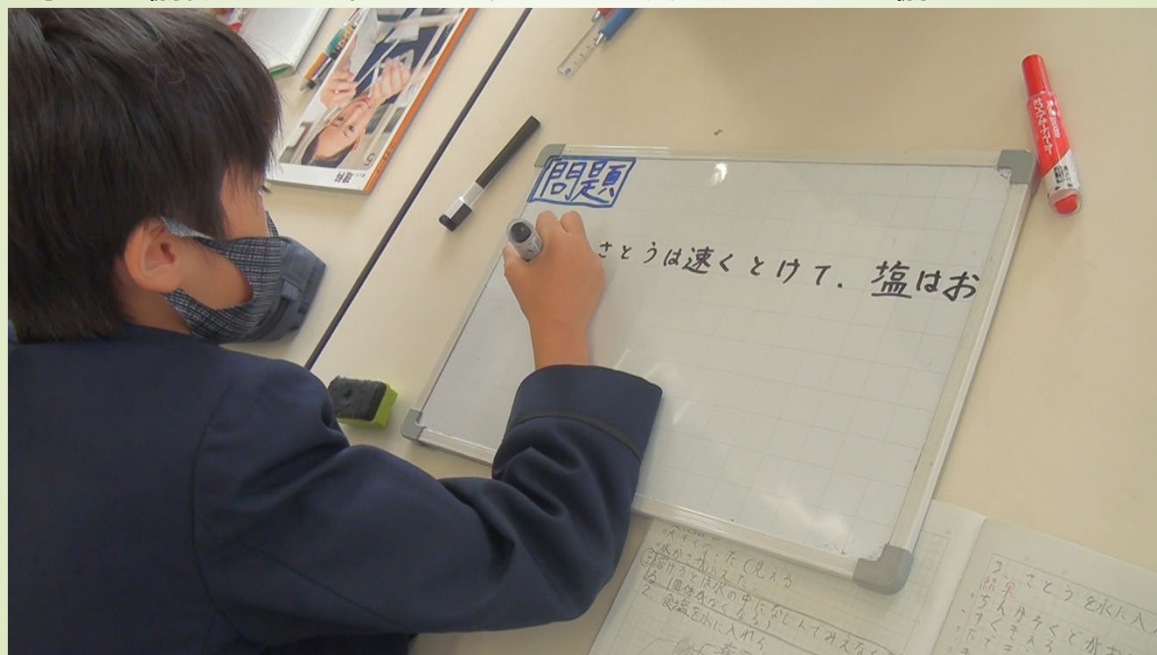
個による思考 一人で考える場の積み重ね

7



自ら求める協働的なフィードバック 各研究所における協力

8



自ら求める協働的なフィードバック 学会における協議

9



個による思考 一人で考える場の積み重ね

10



自ら求める協働的なフィードバック 学会における協議

11



成果と課題

12

- 「科学的な見方・考え方」は、省察の重要な視点となる。自ら働かせざるを得ない場の設定は有効。
- 個による思考の積み重ねは「自分が学びの主体である」という、問題解決の必然性・主体性につながる。

- △いつ、どのようなフィードバックが必要かを、個々に選べるようにする。
- △「見えなくても確かに存在し、物質により性質や働きが異なる」という科学概念は、現実社会の諸課題とどのように対応するのか？

理科・生活科の成果と課題

13

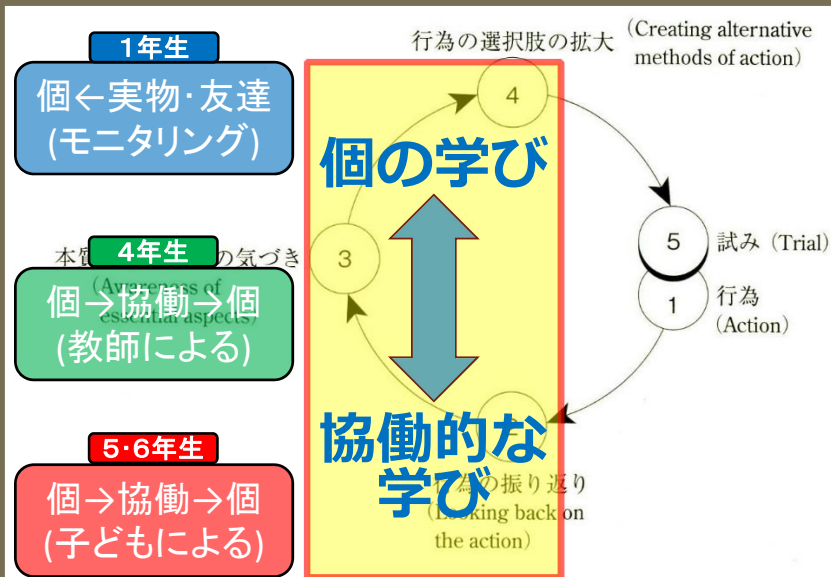


図 2.2 省察の理想的なプロセスを説明する ALACT モデル

コルト・ハーヘン, 2019

- 個の必要感に基づいた協働的な学びは、それぞれの学びを深め合う。
- ALACTモデルにおける2～4の省察場面で、「教え込まず、自ら気付かせる」ための発達段階に応じた支援の在り方が検証された。

- △ 拡大した選択肢から決定したプロセスや方略を、個々に実行していくための単元・題材づくり。
- △ 必要なフィードバックを確実に得られる支援。

参考文献

- ・ 思考と表現を一体化させる理科授業 猿田祐嗣・中山迅 2011 東洋館出版社
- ・ 教師教育学 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ F・コルトハーヘン 2019 学文社

令和2年度 音楽科実践発表資料

1

令和2年11月9日

音楽と豊かに関わるための 「省察」の実践



秋田大学教育文化学部附属小学校 音楽科 小林 葉子

大山 光子

2

音楽科における自律した学習者

自分の思いと知識や技能の習得
を往還させながら，音を通して表
現できる子ども



音楽科 昨年度までの成果と課題

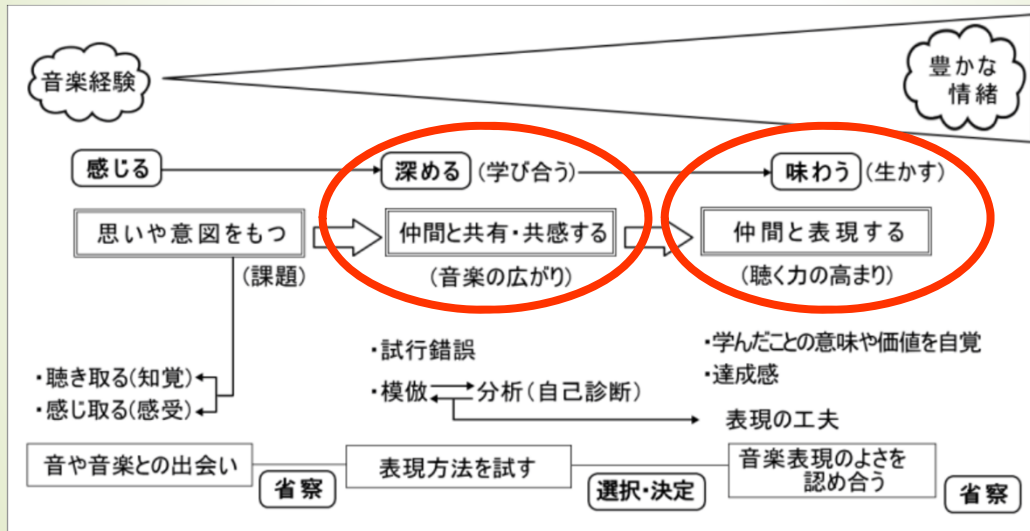
- 成果** ・聴き合うことで、音楽的に高まっていくことができる省察の工夫
- ・視点を明確にして音楽的な活動を積み重ねていくことで、音楽的な「見方・考え方」を自覚的に用いる題材構成
- 課題** ・聴き合う活動で、アドバイスや感想がどの程度音楽的な「見方・考え方」に基づいているか。

音楽科研究テーマ

音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び

- 重点1** 試行錯誤を通して、効果的な表現方法を試すための手立ての工夫～**少人数によるアンサンブル活動の活用**～
- 重点2** 音楽的な「見方・考え方」を働かせて、互いに聴き合うことで「聴く力」を高める省察の工夫
～**聴く耳を育てる**～

音楽科学習のプロセス



令和2年度 音楽科実践発表資料

実践1 少人数アンサンブル活動の中での省察



2年
「おまつりの音楽を楽しもう」

秋田大学教育文化学部附属小学校
音楽科部 小林 葉子

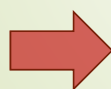
鑑賞からスタート

津軽じょっぱり太鼓（青森県弘前市）
さんさ踊りの太鼓（岩手県盛岡市）
御陣乗太鼓（岩手県輪島市）
八丈太鼓（東京都八丈島）

おまつりみたい

たいこの音が
重なっている

かけ声が入っている



たいこの音楽って楽しそう！
やってみたい！

たいこのリズムをつくる

1 たいこの音やリズムを 声で表してから打つ

♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
ドン	ドン	ドン	(ウン)	ドン	ドコ	ドン	ドン
♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
ドドンコ	ドン	(ウン)		ドコ	ドコ	ドコ	ドン

➡ 自分のリズムをつくりたい！

たいこのリズムをつくる

2 自分だけの たいこのリズムをつくる

既習

- ① たいこのリズムを 声で表す
- ② たいこのリズムを 声と手拍子で表す
- ③ たいこのリズムを 声で表しながら、手で打つ
- ④ たいこのリズムを 声で表しながら、ばちで打つ

**楽譜と 声と ばちの動きが
ぴったり合うことが大切！**

たいこのリズムをつくる

2 自分だけの たいこのリズムをつくる

Three examples of Taiko drumming notation, each with a heart icon and a sound effect icon (a red star, a red 'OKI' character, and a red 'OKI' character with a star).

Example 1: (はく) 声で ドン ドン ドン (ウツ) ドン ドン ドン (ウツ) ドン

Example 2: (はく) 声で ドン ドン コ ドン ドン ドン コ ドン (ウツ)

Example 3: (はく) 声で ドン ドン ドン コ ドン ドン ドン コ ドン (ウツ)

1人で確かめながら
何度もつくり直す

友達に聴いてもらって
確かめる

友達とたいこのリズム
をつなぎたい！

グループで たいこのリズムをつなぐ

- リレーでつなぐ
- みんなで重ねて打つ

△ばちは初めて→音が小さい
△「ドンドコ」の音が小さい

おまつり みたいにしたい

- たいこの音が大きくなる
- 「ドンドコ」大きくなる
- かけ声を入れる
(つなぎ 始め 終わり)
- 拍打ちをする

△かけ声控えめ
△手の振りが小さい
△下（楽譜）を見ている
△「いっせーのーで」で
始めるグループも

7

グループで たいこのリズムをつなぐ

手の振りが
小さい...

うまく始め
られない...

かけ声が
小さい...



8

グループで たいこのリズムをつなぐ

もっと **おまつり** みたいになりたい

楽しい

にぎわっている



どうしたらいいかな？

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ たいこの音やかけ声を大きくする ・ 手の振りを大きくする ・ 顔を上げて打つ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍の流れにのって打つ ・ 始め方や終わり方を工夫する |
|--|---|

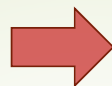
11

グループで たいこのリズムをつなぐ



12

どんどん **おまつり**
みたいになってきた



今度は みんなでつなぎたい！



自分の変容を振り返る

わたしは、さいしょは、おちでたさながら、小さい
声で「リズムのリズムを言っていたけど、今はおち
でたさながら、**声の大きさ**
たりまつりっぽくなったのになりました。

さいしょは、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
でも、今は、**手の振り方**
なりのおちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

は、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
おちの持ち方
拍打ち
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

さいしょは、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
かけ声
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

さいしょは、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
アドバイス
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

**おまつりっぽく
なって楽しくなった**

自分の変容を振り返る

はじめは、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
かけ声
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
拍打ち
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
腕の振り
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
前を見る
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

はじめは、おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、
たいこをたたくの
はおもしろくて楽
しくて、これから
もやりたいです。
おちの、おちの、おちの、おちの、おちの、

成果と課題

- 繰り返し学んで身に付けた，友達とつなぐという「見方・考え方」を使って，友達と対話を重ねながら新たな音楽づくりに取り組むことができた。
- 子どもの困り感に基づいて授業を展開したことにより，子どもたちが音楽に主体的に関わって技能を高め，生活の中で生きる音楽へとつながっていった。

- △一人一人の技能を見取るための時間と場の確保。
- △変容を自覚させるための振り返りのもち方。

令和2年度 音楽科実践発表資料

実践2 聴き合う活動による省察 ～よりよい音楽表現を目指す授業づくり～

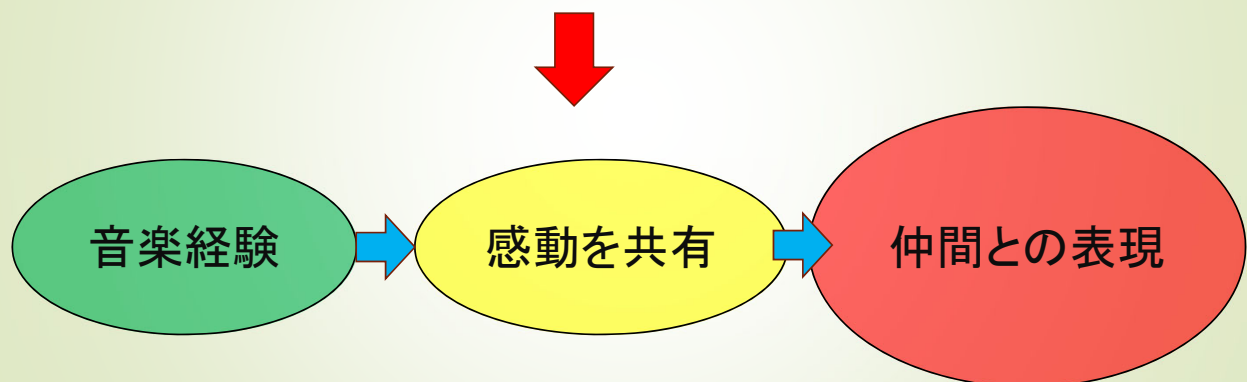


6年音楽科
豊かな表現で
～思いをもって自分たちの合唱をつくろう～

秋田大学教育文化学部附属小学校
音楽科部 大山 光子

これまでの課題

自分なりの思いや意図をはっきりと持たないまま活動していく様子



学年行事

6年合唱コンクール（11月）

本題材で育む主な資質・能力

- ・ 各声部の歌声や全体の響き，伴奏を聴いて 声を合わせて歌う。

バランス

合唱づくり

- ・ 呼吸や発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない響きのある歌い方で歌う。

自分の声を知る→パート選択

音楽科の学びに向かう力・人間性

- ・ パートの重なりが作り出す音の重なり的美しさに気付き、互いのバランスを考えながら演奏しようとする。

- ・ よりよい音楽表現を目指して，問題解決のために 自分なりの目標をもち互いに支え合いながら音楽活動しようとする。

音楽との出会い

思い を大切にした選曲

学級活動での話し合いを通して



『ここにいる幸せ』 《混声三部合唱》

嶽 里永子 作詞 松井 孝夫 作曲

子どもの思い

5

選曲にあたって
このクラスのみならず一緒にいられる事とつながる。
奇跡で、6Cのみんなと出会えたこと。
今、現在の事が幸せだと実感できる曲!!

選曲にあたって
このクラスでいられる時間はもうあまりないから、この曲を自分たちが愛することが同じ意味だったの。
これを聞いている人たちが、今に何をしようか。

歌詞と自分たちを重ねる

選曲にあたって
この曲の歌詞が今の残りもう少ししか6年組といかない。私達がいなくても大丈夫な曲。
自しゅく期間中の思いなどをこの曲にのせて歌いたかった。なのでこの曲を選びました。

選曲にあたって
選んだ理由は、歌詞の言葉が心にしみてくる。木更利の曲のいいところ。という今を大切にしたいとクラスで思ってたからです。
残り少ないクラスで過ごす時間が貴重だと改めて思ったからです。(6Cで過ごせていることに感謝、みんなに会えたこと)

6Cでいられる今を大切にしたい

◎みんなが同じ方向を見ている

共通理解

パート選択

6

自然で無理のない響きのある歌い方



変声期

自分の声を知る

《混声三部合唱》

男子の活躍

ソプラノ

アルト

テノール

自分に合うパート

ここにいて自分のパート決めをし、
外にあったテノールにしました。

自分の声を知る

自分はソプラノで変えるかもしれないけど
音でいえずれないようにしたい。強弱には特に
気を付けたい。

一回曲を聞いてクラスでえらんでよかった
と思いました。テノールを歌うのでかみは
たいです。

曲への思い

自分のパートは、ソプラノは なるたけ、ア
ルトや、テノールに打ち消されないよう
にしたり、ソプラノのよさを生かしていきたいです。

バランス

他のパートの音も聞きながら
音量を調整し、バツに残るような重なりを
cosmosと同じように息づきのするところを注目し完ぺきに

る歌したからだ。最初は高い音が出にくくな
ったからテノールに入。たけど、まだ高い音域を
歌えることが分かり、アルトパートに入った。

積極的に歌う心を失わせない工夫

自分の声を知り修正する

パート練習

アンサンブル活動の活用

各パートでの課題設定



練習方法の工夫



各パートでの省察

見方・考え方

◎ 一人一人が自信をもって歌えるようになる

技能の向上

パートでの課題設定

9



◎ 音楽的な見方・考え方に基づいて

練習方法の工夫（子どものふり返りから）

10

- ・パート練習で、一人ずつ歌ったり工夫してやったら音がとれるようになって、自信をもって歌えるようになりました。（A児）
- ・ソプラノパートでは、少ない人数のグループで歌ったりすることで、細かいところまで、できていないところが分かった。（B児）
- ・少人数で歌って、しっかり音がとれているか、言葉がはっきりしているかに着目して、聞くことができた。（C児）
- ・少人数のグループで歌い、自分がどこが歌えて、どこが歌えていないのかを知ることができたので、ますます上手になれた。（D児）

◎ 個の技能向上の必要性に気付いた **少人数の有効性**

パート内で省察する姿

11



◎ できていないことを確認する

合唱づくり

聴く耳を育てる

12

自分たちの演奏を聴く

客観的に聴く



課題を見つけ出し合う

共有する

協働的な省察

◎ 仲間とよりよい音楽表現をめざす

達成感

成果と課題

- 録音した演奏を聴く活動(客観的に聴く)は、できていないことやよさに気付くことができ、自分たちの変容を自覚できる省察のためのフィードバックとして有効。
- よりよい表現を求めるには、協働的なフィードバックが効果的。

- △よりよい表現を求めるには、一人一人の技能が不可欠。意欲を失わせずに技能を高めていくには？
- △合唱部員や吹奏楽部員の役割(音楽的な価値付け)が大きい。モデルとなる有効な教材を計画的に蓄積していくことが必要。

音楽と豊かに関わるために ～成果と課題～

- 子どもの実態に合った題材で、仲間と共につくり上げる音楽科ならではの充実感や達成感を味わうことができた。
- やり直す機会を十分に確保したことで、よりよい音楽表現へとつながっていった。

- △表現力の基盤となる一人一人の技能の見取り方・高めていくための手立て。

参考文献 ・小学校学習指導要領解説 音楽編 2018 東洋館出版社

令和2年度 図画工作科実践発表資料

令和2年11月9日

1

低学年図工科における 「省察」の在り方



秋田大学教育文化学部附属小学校 図工部 佐々木恵 進藤亨

2

図画工作科における **自律した学習者**

自分が表したいことをはっきり
ともち、表したいことに適した表
現を求めて試行錯誤していく姿



図工部 昨年度までの成果と課題

成果 ○造形的な「見方・考え方」を働かせて、表したいことと表現を往還しながら作品づくりに取り組むことができる授業づくり

○自分の表したいことを伝えるために、効果的な表し方を選択したり生み出したりするための手立て

課題 ○子ども自身が自分の学びを自覚し構想を練っていくための教師の支援

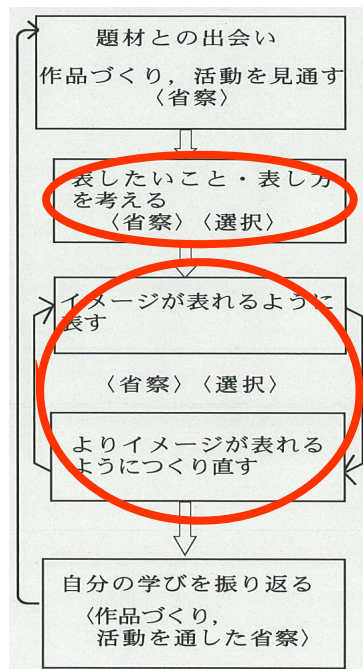
○一人一人の表したいこと、表し方に応じるための教師の支援

図工部研究テーマ

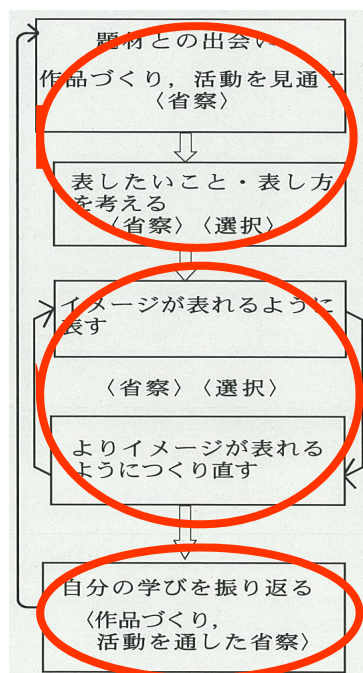
表したいことをはっきりともち、
表したいイメージに近づくように
表現を工夫する子どもを育む学び

重点1 試行錯誤を通して効果的な表現方法を**選択**するための手立ての工夫

重点2 イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせて自分の学びを**省察**し、次の活動につなげていくための手立ての工夫



重点1 試行錯誤を通して効果的な表現方法を**選択**するための手立ての工夫



重点2 イメージや形, 色などに着目した「見方・考え方」を働かせて自分の学びを**省察**し, 次の活動につなげていくための手立ての工夫

こんなことが
できるようになった!

こんな力がついた!

また
使えそうな
ことは何?

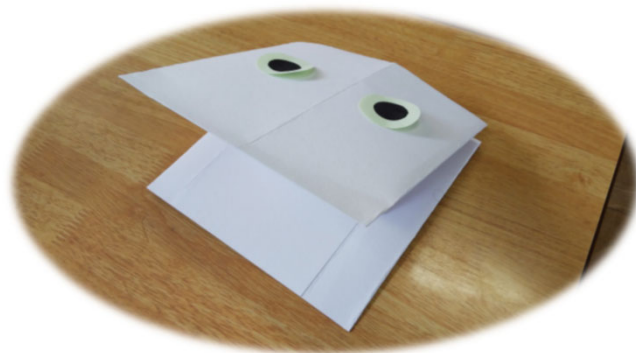
実践1 材料や作品と豊かに関わりながら、 表したいことをはっきりさせていくための 省察の在り方



1年「発見！
世界に1匹だけの ○○さん」
(工作)

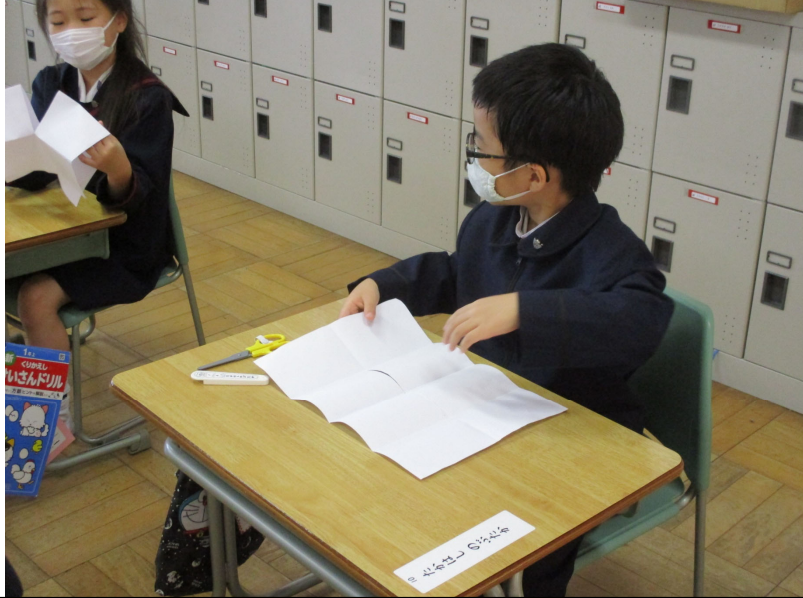
秋田大学教育文化学部附属小学校 図工部 佐々木 恵

導入では・・・



9

つくり方に慣れる

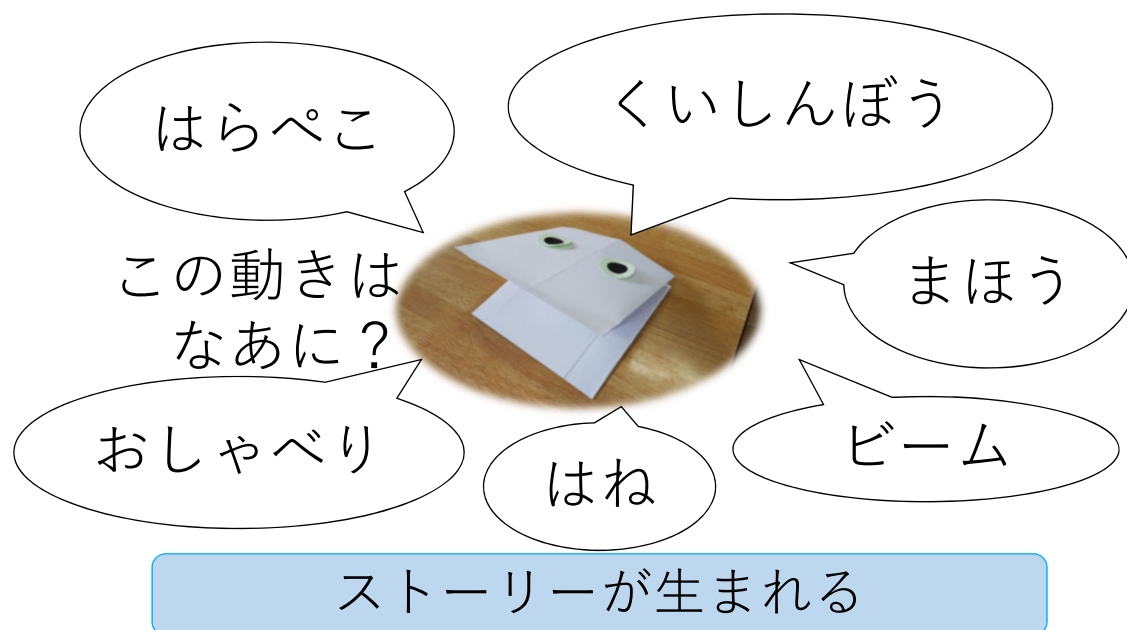


10

形ができてくると わくわく感が高まる



11

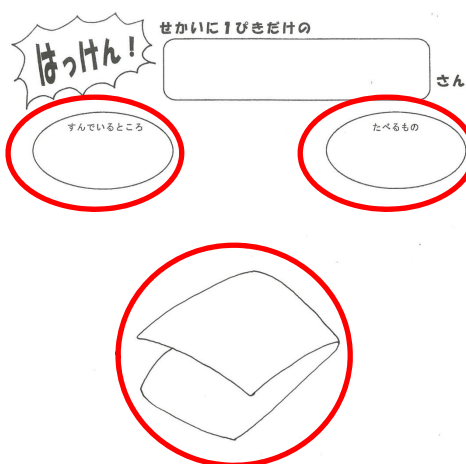


12

色を考えて画用紙を選ぶ



練習から本番へ → 安心感



○ふりかえり

		😊	😐	😞
1	かたちをつくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	かざりやまわりの ものをつくる①	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	かざりやまわりの ものをつくる②	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

1ねん

なまえ
くみ

15

シートの活用→表したいものを
はっきりさせる



16

材料の提示 → 色・形からの
イメージ



17



材料コーナー

18

材料からのイメージ→イメージを
広げる



材料からのイメージ→表したいこと
をもつ

造形的な
「見方・
考え方」



カードを活用した省察

イメージ



表 現



21

効果的な表現方法を選択できるようになるための技能の指導

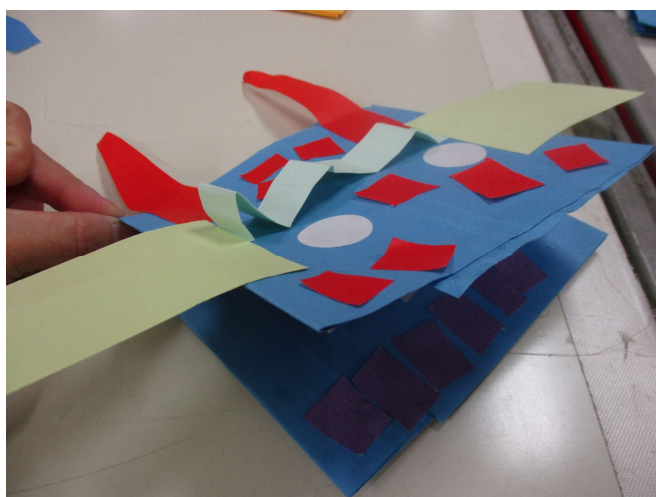
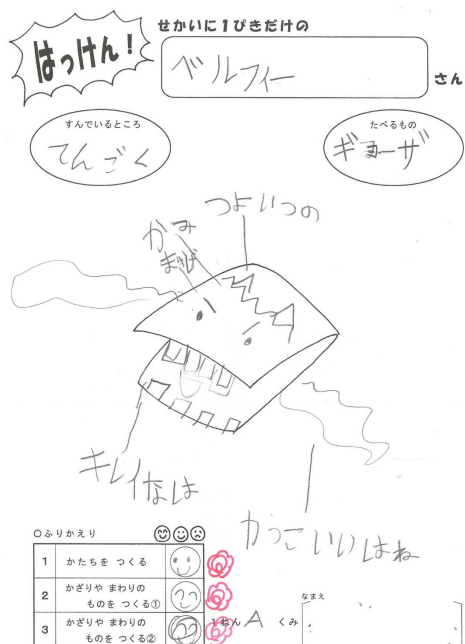


22

作品の交流→自然な対話の姿



作品の交流→自然な対話の姿



26

はっけん! せかいに1びきだけの

はらぺこ さん

すんでいるところ
キッチン
[たべものがあふ
はう]

たべるもの
にんしずんし
おんないもの

たべるものを
はなすの
いひひ

よくたべものが
みえる。

いいしんじうたから
したくまいにあて
る。

〇ふりかえり

1	かたちをつくる	😊😊😊	😊😊😊
2	かざりやまわりの ものをつくる①	😊😊😊	😊😊😊
3	かざりやまわりの ものをつくる②	😊😊😊	😊😊😊

くみ A []



28

はっけん! せかいに1びきだけの

はらぺこ さん

すんでいるところ
みち

たべるもの
はなす

たべるものを
はなすの
いひひ

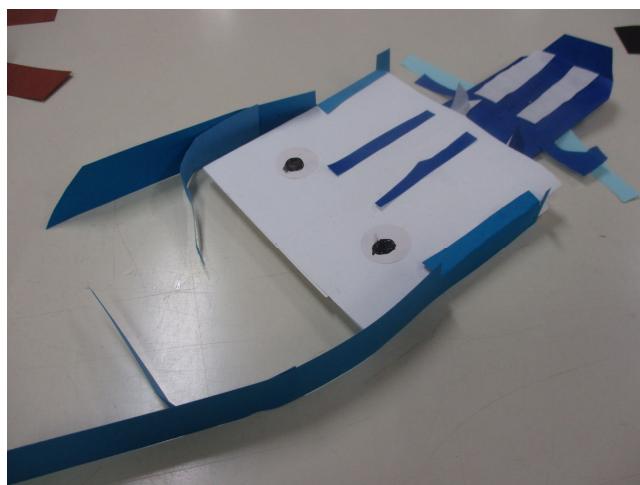
よくたべものが
みえる。

いいしんじうたから
したくまいにあて
る。

〇ふりかえり

1	かたちをつくる	😊😊😊	😊😊😊
2	かざりやまわりの ものをつくる①	😊😊😊	😊😊😊
3	かざりやまわりの ものをつくる②	😊😊😊	😊😊😊

くみ A []



はっけん!

せかいに1きだだけの
にんぎょひめ

さん

すんでいるところ
シンカイ

たべるもの
さかな、かい

うみとわかんないいろ
のなのおもてかいいのりポン
みえんい / るこ

かみ
め

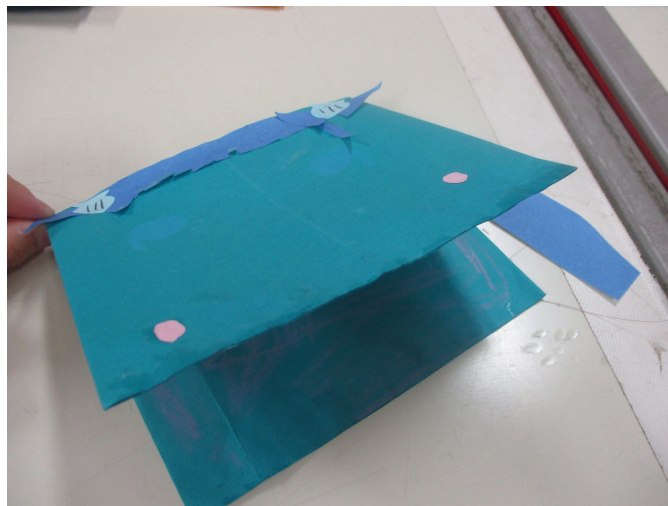
ながい
かみのけ

お
ペン

ののり
ねえはがいては
つがえる

○ふりかえり

		(笑)	(泣)	(怒)
1	かたちをつくる	(笑)	(泣)	(怒)
2	かざりやまわりの ものをつくる①	(笑)	(泣)	(怒) おまへはくさくさ
3	かざりやまわりの ものをつくる②	(笑)	(泣)	(怒) うめん Aくみ



1. 表したいことをもたせるための手立てが有効だった。

- ・学習カードの活用
→イメージと表現の往還
- ・材料コーナー（色や形）
- ・参考作品の提示
（接着の仕方，材料の使い方）

省察

选项

2. 「動くもの」という題材設定
- ・導入で子どもの意欲◎
 - ・自然な形で友達との対話

本実践の課題

1. 活動の見取り
→活動は消えてしまう
途中経過を記録に残すなどの工夫
2. 子どもが学びを自覚し，一般化するための
省察の場の工夫

【参考文献】

- 小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省
2017 日本文教出版

実践2 名付けによる省察



2年
「形のかくれんぼ」実践から

秋田大学教育文化学部附属小学校
図工部 進藤 亨

本題材は

**画用紙を適当に切った形を〇〇に
見立てる**



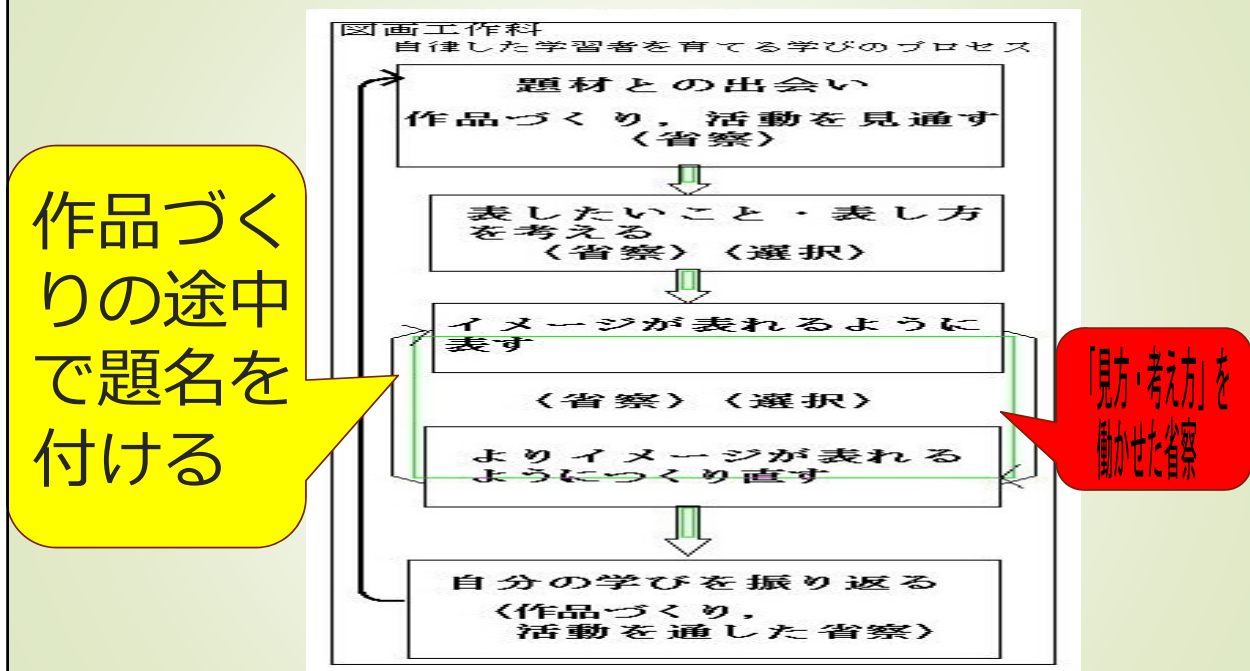
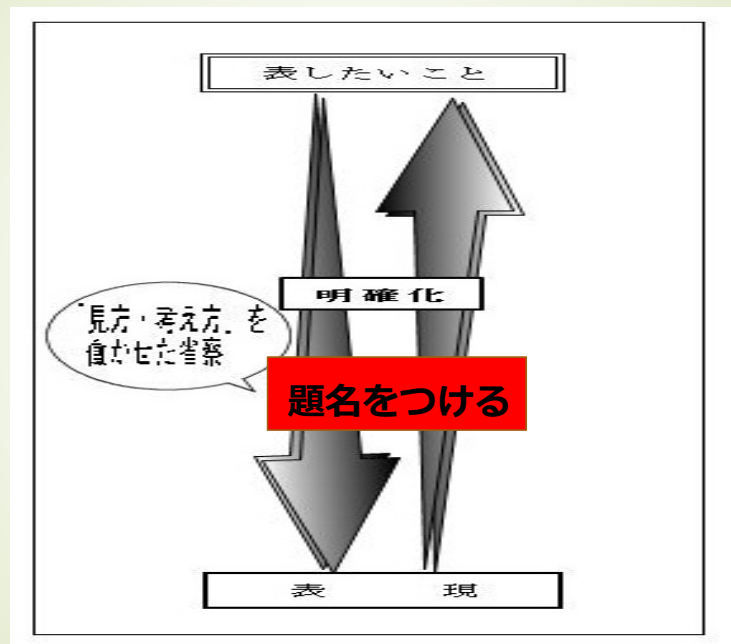
**見立てた形を並べて、自分で考え
たお話しの絵を描く**

低学年の子どもの作品づくりと省察の姿

- ・ 表したいことがはっきりとしているときに、省察が行われる
- ・ 試行錯誤は省察の証
- ・ 作品づくりに没頭しているときでも省察が行われている場合がある
- ・ アイデアカードの活用の他に省察を促す手立ては？

対話しながら省察する姿





題名をつける効果

- ・ 題名をつけること自体が省察
- ・ 言語化することで、表したいことが はっきりと する
- ・ 言語化することで、固定化する

題名の感じが出るように表現を工夫していく
(表現に名前をつける→名前から表現を生み出す)

題名をつける際のポイント

- × きょうりゅう
- ○○な きょうりゅう

どんな

「どんな」が思考を促す

事例 1

11



あつそうな火をふく きょうりゅう

事例 2

12



海の王国へ

事例3

13



ドライブしている車が 人にそうさされた 大きいヘビと とおりすぎる

事例3



あぶないドライブ

事例3

題名の変容

①ドライブしている車が 人にそうさされた 大きいヘビと とおりすぎる



②車が ヘビに にげているところ



③あぶないドライブ

成果と課題

成果

- ・作品作りの途中で題名をつける活動により、立ち止まって自分の表し方を省察することができた
- ・表現と表し方の往還を促すことができた

課題

- ・表現と表し方の往還を促すための、さらなる手立てを探る
- ・イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせて、次の活動や生活に繋げるための省察の在り方を探る

参考文献

・名指しと必然性 ソールA. クリプキ 1985 産業図書株式会社

図工科の成果

○表したいことをもたせたり，表したいことをはっきりさせたりするための手立て

- ・ 学習カードの活用→イメージと表現の往還
- ・ 名付け→表現を，それに近付けていく



他の学年でも効果を期待できる

図工科の課題

△自分の学びを自覚し，一般化することで他の題材や生活場面に生かすための省察場面の設定

個の気づきを全体で共有する



学びを自覚・一般化し，次にも使えるようにする

小学校家庭科

令和2年8月27日

よりよい生活を創り出すために、
学んだ知識と技能を用いて自ら実践
しようとする子どもを育む学び

秋田大学教育文化学部附属小学校

佐々木 絵理子

家庭科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」とは

- ▶ 生活事象に、多様な価値観があることに気付き、自分の生活を見つめ、ものの見方を広げ、生き方をより豊かにしていこうとする姿
- ▶ 生活をよりよく工夫するために、日常生活の中から課題を設定し、解決方法を考え、実践活動を評価・改善しながら、課題を解決しようとする姿
- ▶ 生活事象を科学的に見つめ、日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を積極的に身に付けようとする姿

2 年次研究の成果と課題

成果

実習中の観察や意見の交換，計画の見直しの場面で，自発的に省察を行い課題解決を図っていた。

子どもの願いを課題に反映させることで，解決に必要な資質・能力が明確になり，学習意欲や目的意識を引き出すことができた。

課題

体験的な活動の中で生み出された省察に対しての効果的な価値付けの在り方

設定された省察の場以外でも、新たな気付きや考えが生まれているが、活動の中で流れてしまいがちである。それらをフィードバックして自覚するための工夫が必要である。

令和2年度 家庭科 研究の重点

(1) 多様な価値を認め、判断し、選択・決定する学習場面を位置付けた題材構成

(2) 家庭科の「見方・考え方」を働かせ、次の学びへとつなげるための省察の在り方

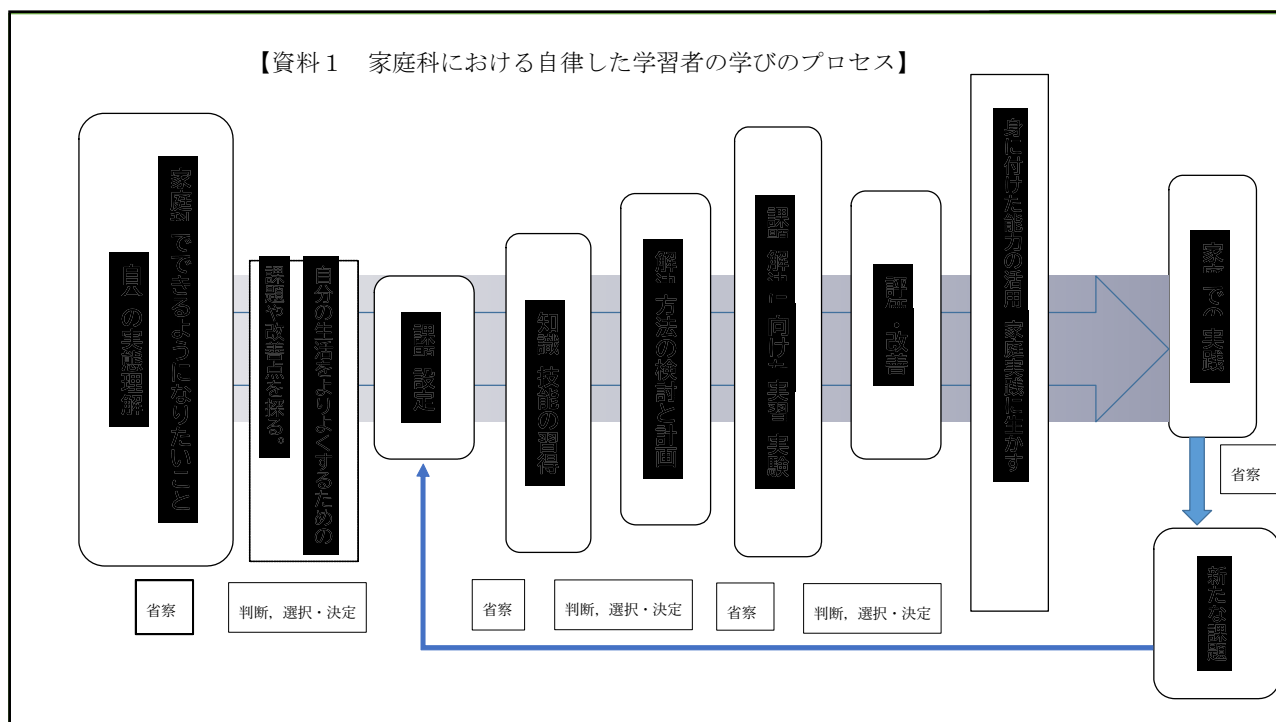
(1) 多様な価値を認め、判断し、選択・決定する学習場面を位置付けた題材構成

家庭生活の多様化や家事の簡素化に伴い、子どもたちの生活様式は様々である。題材の中に、自己の生活において解決すべき課題を見出し、その解決のために、多様な価値を認めながら、それらを比較・検討する学習場面を位置付ける。比較・検討の場面を通して、客観的に自己の生活を見つめながら、自分や家族、地域の生活をよりよくするための方法を根拠をもって判断し、選択・決定できる力を高めていく。そして家庭生活においても自己判断、決定できる実践力を身につけられるようにしたい。

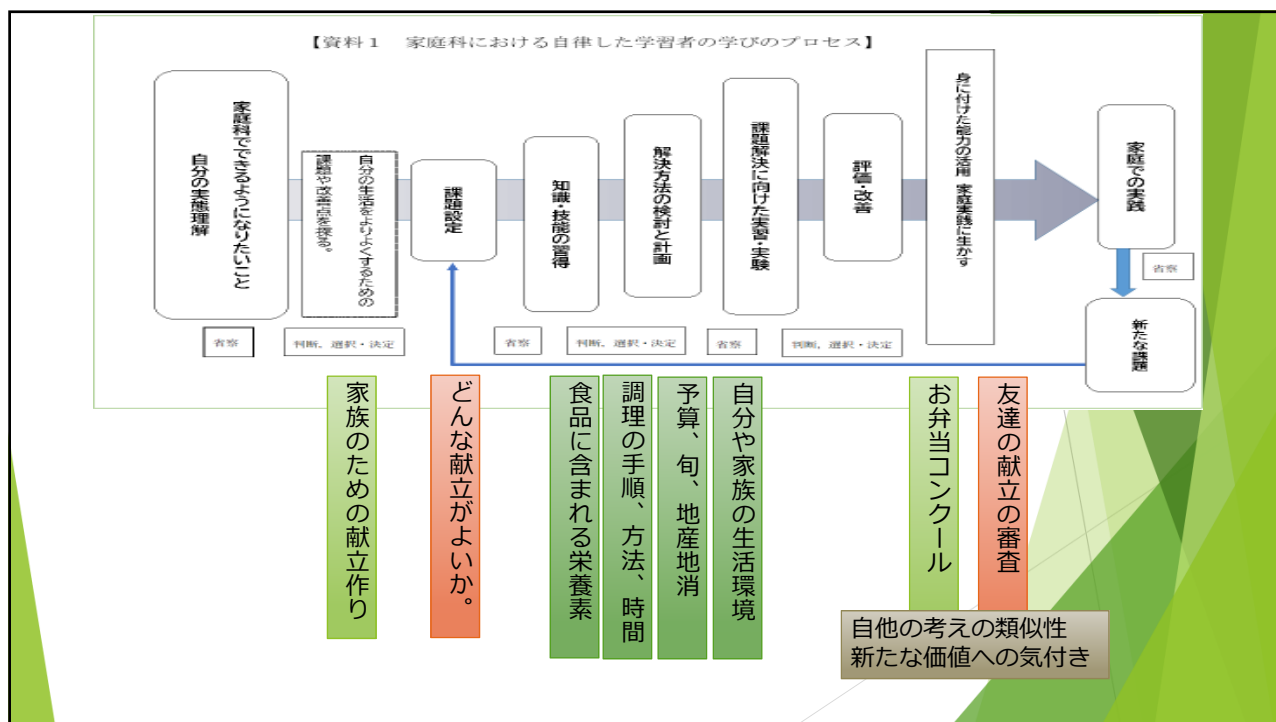
(2) 家庭科の「見方・考え方」を働かせ、次の学びへとつなげるための省察の在り方

様々な体験的な活動を通して、実感を伴いながら習得した知識・技能を、家庭での実践に結び付けることができるよう、生活の中から見出した課題の解決を目指して適切な省察の在り方を検討する。体験的な活動の中で生まれる新たな気づきや考えを、映像による実習記録やホワイトボードを用いた振り返りなどにより可視化することにより、その場だけの気づきでは終わらない、次の学びへとつなげるため省察の工夫を行う。

【資料1 家庭科における自律した学習者の学びのプロセス】



第6学年「こんだてを工夫しよう」



- ▶ 家族のための一食分の献立を立て栄養素に分類する学習を通して、食品に含まれる主な栄養素について知り、食品を表にまとめたり、給食の献立表を活用したりしてどのような栄養素が含まれているのかを調べる学習に取り組んだ。栄養のバランスを取る必要に気付くことで、始めに考えた献立を改善しようとする姿が見られた。

個の学び 個の省察

- ▶その学習を基にお弁当の献立を作成し「お弁当コンクール」を実施した。献立を考える学習においては「栄養」「調理の手順や時間」「予算」「季節や旬」「自分の生活環境」「地産地消」など多くの視点から課題の解決を図り、これからの生活に生かそうとする意識が高まった。

実践への意欲

多様な考え→協働的な学び

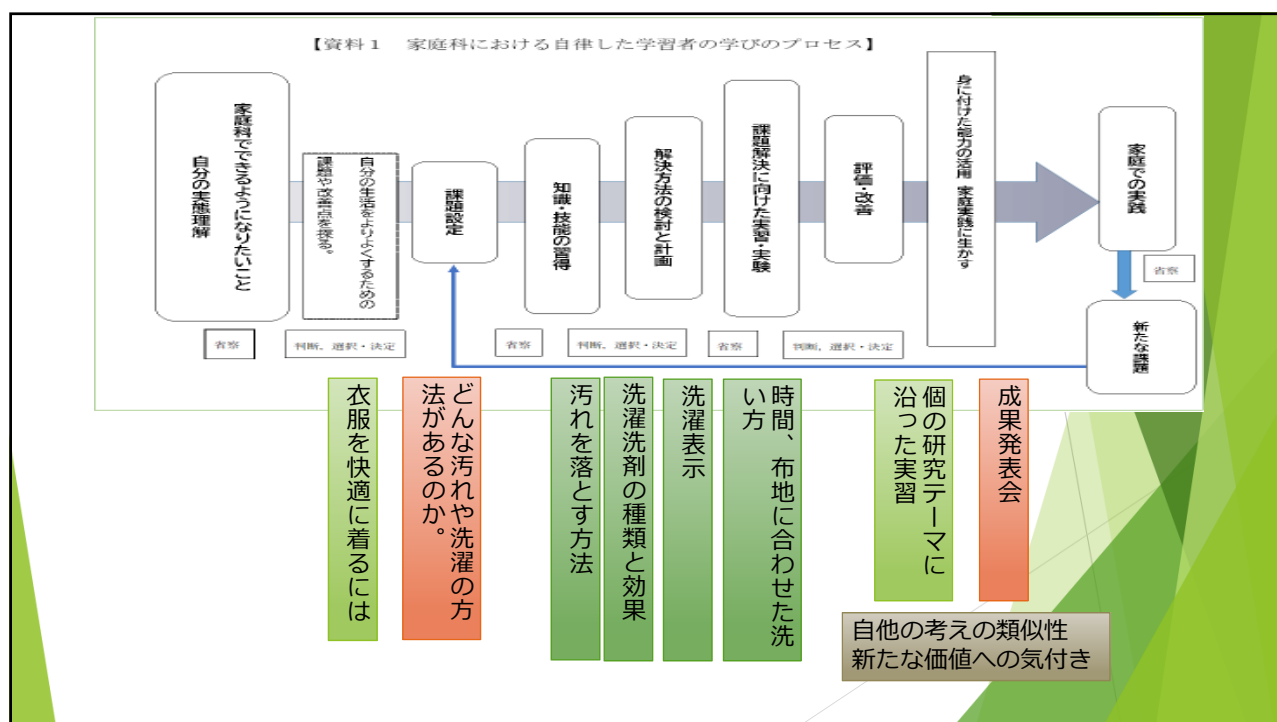
- ▶またコンクールを設定し互いの献立を審査し合うことで、自分と友達との生活や考えの中に類似性を見つけたり、新たな価値があることを発見したりしながら、多様な考えや価値を比較・検討し、生活をよりよくするための方法を選択・判断したり、身に付けた知識や技能を活用し実践したりしようとする態度が育ってきた。

実践への意欲

多様な考え→協働的な学び

第6学年 適切な洗濯の仕方を 調べよう

学習指導要領改訂における主体的・対話的で深い学びを実現するために、児童が自ら問いを発し、調べたいことをその場で調べて新たな知識を獲得したり、自分の考えを友達と共有し、比較・検討を行ったりする学習活動が重要となる。家庭科の授業にICTを活用することにより、教室内や教科書だけでは得られない、広い範囲での情報の収集が可能になる。今回、「B衣食住の生活」の「日常着の手入れ 洗濯の仕方」の課題解決学習において、子ども一人一人がもった問いを解決するための手段として、タブレット型端末を活用した調べ学習の実践を行った。



衣服にはどこにどのような汚れが付いているのか、体育着や靴下などの観察を行った後で、洗濯の仕方について個々に課題を設定した。「外で活動することが多いので泥や砂の汚れを落とす方法が知りたい。」「どのような手順で洗濯をすると早く汚れを落とすことができるのか。」「洗剤を節約しながら洗濯はできるのか。」などの個人の研究テーマを設定し、タブレット型端末を活用して情報収集を行った。



- ▶身近な衣服に付着する汚れの種類を分類する学習を通して、衣服には様々な汚れが付いていること、長く快適に着るためには適切な手入れが必要であることや、洗濯の仕方や洗剤、表示など洗濯をするために必要なことについて**個人の研究テーマを設定**した。

個の学び 個の省察

- ▶ 同じ研究テーマで**共同研究チーム**を作り，科学的な見方を用いて、どのようにしたら汚れを落とすことができるのかを仮説をもとに**検証**する実験計画を立てた。

協働的な学び→個の学び
→実践への意欲

- ▶ **個の研究テーマと実験計画**を基に，洗濯実験を行い，汚れの落ち方を検証した。
- ▶ 結果を共有し，**比較検討**を行った。

実践への意欲
多様な考え→協働的な学び



個の研究テーマと全体の検証結果をもと
に**個人の考察**を行い，**研究の成果**をまと
めた。

実践への意欲
多様な考え→協働的な学び

【ICT活用における成果と課題】

【ICT活用における成果】

子ども一人一人の興味に合った情報を取得できる点で非常に効果的であった。

調べたことを全体で共有する場面においても，図や写真，動画などを提示しながら発表することで，視覚情報を伝えることができ，互いの理解を深めることができた。

個人の課題解決を図ったことにより，解決への意欲を高め，主体的・対話的な学びにつなげることができた

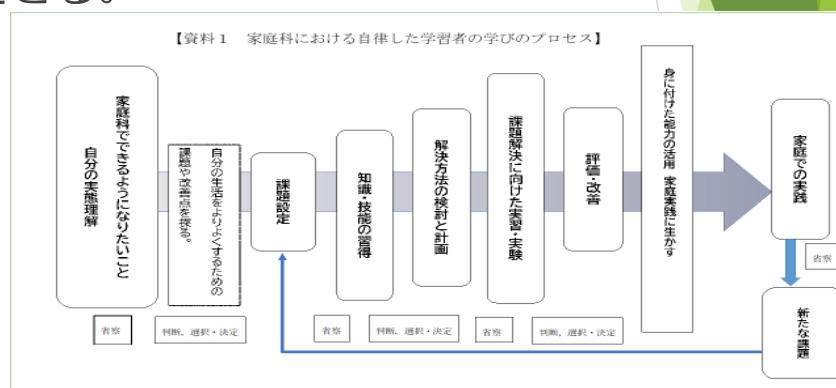
【ICT活用における課題】

タブレット型端末を使用することや子どもが機器使用に慣れることは、限られた時間の中で多くの情報に触れることにつながる。しかし、一人一人の学習の進捗状況をその場で確認したり、タイミングよく助言したりすることが難しい点は課題と言える。

個々の状況を見取ることのできるサポートシステムソフトを活用するなどの手立てを講じて、個人の学習状況に合わせた指導や支援ができるように工夫していきたい。

令和2年度 取組の成果

○学びのプロセスをもとに題材構成をすることで、選択・決定や省察の場面が明確になった。他の題材や教科との統合を図ることでさらに学びのつながりを意識付けることが期待できる。



○選択・決定の場面では，なぜそれを選ぶのかを意識させることで，根拠が明確になり，科学的な考え方につなげることができた。

○個人で研究テーマをもち，課題に取り組んだことにより，個で知り得たことや実習を通して体験的に学んだことを省察する場を多く設定することができた。

令和2年度 取組の課題

○課題設定において個人の実態に合った課題を設定することは有効であるが，知識・技能が十分に身に付いていないと個人で解決を図ることは難しいため，基本的な技能の習得に十分に取り組ませる必要がある。

○個の学びと協働的な学びの場面の設定を工夫することでより効果的な題材構成ができるのではないか。

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等を踏まえた実習における工夫について

〔被服における事例〕

題材名「オリジナルのマイバッグを作ろう」

児童同士の近距離によるグループ活動や、接触、密集、教具の共有を防ぐために、教室、理科室、家庭科室の3か所に活動の場を分散して設定した（資料1）。教室では主に、型紙の立案やしつけ掛けなどの自分の机に座って行うことのできる活動を行った。理科室ではアイロンがけや裁断を行い、家庭科室はミシン掛けが行えるよう環境作りを行った。裁ちばさみやまち針などの裁縫用具は個人所有の物を使用させた（資料2）。ミシンは糸の色を固定して使用する児童を絞り、使用前後の手洗いの徹底を行うことで接触感染を予防した（資料3）。ミシンや作業台は学習後に消毒を行った。



【資料 1】活動場所の分散



【資料 2】個の活動場所の確保



【資料 3】使用児童を固定化したミシン作業

題材名「すずしい着方を工夫しよう」

どのような着方をしたら暑い季節も快適に過ごせるのかを話し合う活動において、対面での話合いを避けるために、それぞれの考えた着方の例をイラスト化し、テレビ画面に映し出すことで比較検討する場を設けた（資料 4）。グループでの話合いに比べ、全体で情報を共有することができた。また、複数のイラストを同時に提示することで比較しやすいという利点があった。



【資料4】イラストによる着方のアイデア



【資料4】イラストによる着方のアイデア

〔調理に関する事例〕

題材名「いためて作ろう おいしいおかず」

グループによる調理実習ができないことから、デジタルコンテンツを活用して野菜の皮のおき方、切り方、調理の手順などを確認した。教師が演示するよりも手元や食材を大きく見せることができ、方法を共有するために有効であった。しかし、技能の習得という点では実際に実習ができないことで、技能面の習熟を図ることが難しく、知識に偏った学びになることが危惧される。家庭との連携を図り、授業で身に付けた知識を実際に経験して技能の習得に結びつけられるように工夫していきたい。



令和2年度
第7回校内実践発表会

令和2年11月30日

発達段階のステップを意識した 効果的な省察の工夫

第3, 5学年の実践を事例として

秋田大学教育文化学部附属小学校
体育科 伊藤 敏幸 佐藤 秀恒

発表内容

- 1 体育科研究テーマ課題
- 2 体育科の研究の重点
- 3 各学年の実践
第3学年 「ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム」
第5学年 「ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲーム」
 - (1) 実践の概要
 - (2) 重点1に関わる手立てと子どもの姿
 - (3) 重点2に関わる手立てと子どもの姿
 - (4) 成果と課題

1 体育科研究テーマ・概要

研究テーマ

自他の心身と向き合い、
考えながら動きを見いだす
子どもを育む学び

1 体育科研究テーマ・概要

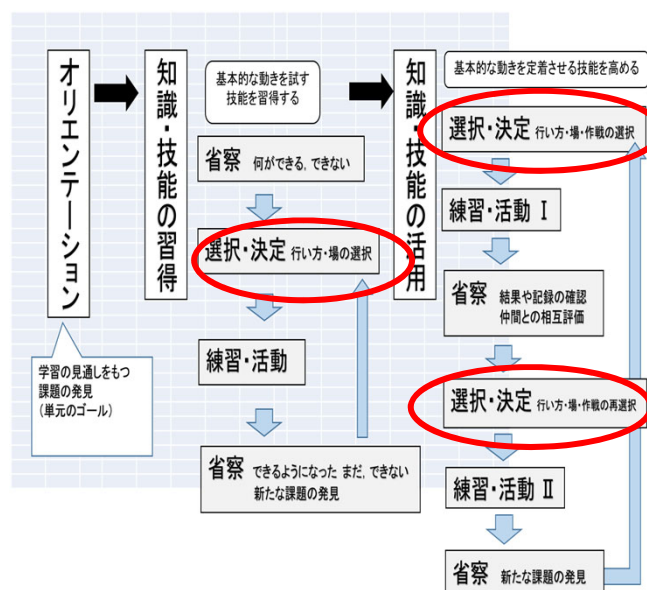
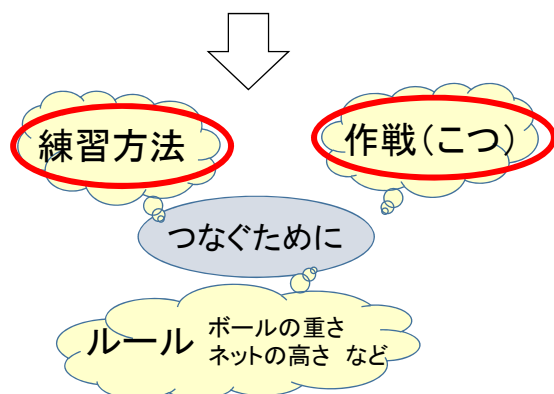
昨年度の実践の課題

- ①タスクゲームや作戦，活動の場などの
選択肢の提示の仕方
- ②省察を通した発達段階に応じた練習の仕方，
場，作戦の選択・決定の場の工夫

2 体育科の研究の重点

重点(1)

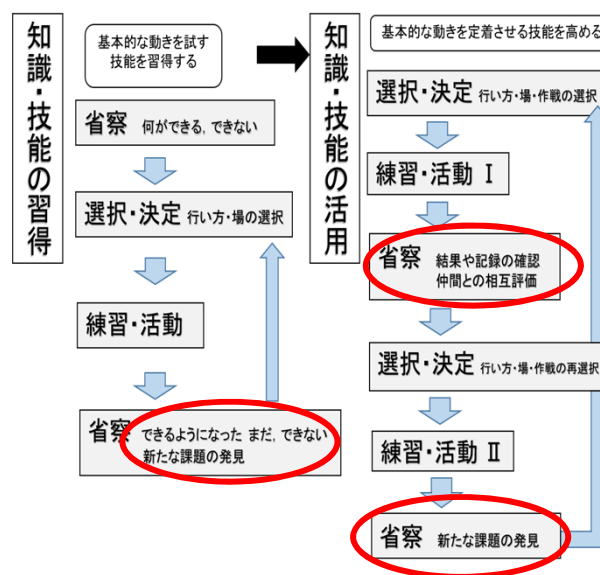
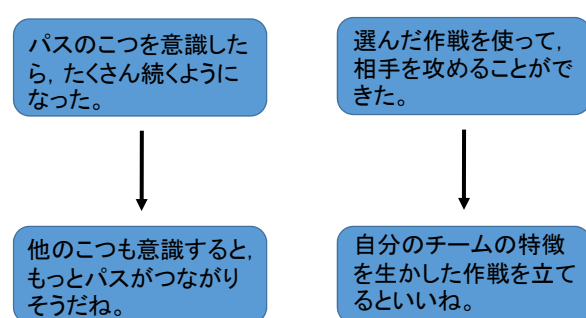
動きのこつに着目して、仲間との関わりの中で活用しながら、課題解決に向けて選択・決定する学習を位置付けた単元構成の工夫



2 体育科の研究の重点

重点(2)

運動を通して身に付けたことを次の課題へつなぐ発達段階のステップを意識した効果的な省察の工夫



第3学年の実践 ～実践の概要～

単元名

仲間とつないでつないで、連続パス！！ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム
（総時数8時間）

本単元で育む主な資質・能力

仲間にボールをつなげるために、ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動したりする。

第5学年の実践 ～実践の概要～

単元名

仲間とつないで ラリー！ ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲーム
（総時数8時間）

本単元で育む主な資質・能力

相手コートへの攻撃につなげるために、ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動したり、味方が受けやすいようにボールを操作したりする。

第3学年の実践 ～実践の概要～

本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」

ボールの操作やボールを持っていない動きに着目し、自分やチームの課題を見付け、解決方法を考える。

第5学年の実践 ～実践の概要～

本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」

ボールの操作やボールを持っていない動きに着目し、自分やチームの課題を見付け、解決方法を考える。

3年生の実践

本単元の学習の流れ

1時間目 : オリエンテーション, 試しのゲーム(省察)

2から6時間目 : 知識・技能の習得
 タスクゲーム(省察), 確かめのゲーム(選択・決定)

7・8時間目 : 知識・技能の活用
 ゲーム大会(選択・決定), 仲間との相互評価(省察)

1単位時間の学習の流れ

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 準備・体操 | 2. はじめの連続パス | 3. タスクゲームの確認 |
| 4. タスクゲーム | 5. こつの記入・確認 | 6. おわりの連続パス |
| 7. 片付け・振り返り | | |

(2) 重点1に関わる手立てと子どもの姿

手立て: 確かめのゲーム・ゲーム大会での作戦の選択・決定

- ・タスクゲームから見付けた こつ を作戦とする
- ・確かめのゲームやゲーム大会で使う作戦(こつ)をチームで選択・決定する
- ・その作戦を意識して, 確かめのゲームやゲーム大会を行う

確かめのゲームでの作戦の選択・決定①
(3時間目:オーバーハンドパス)

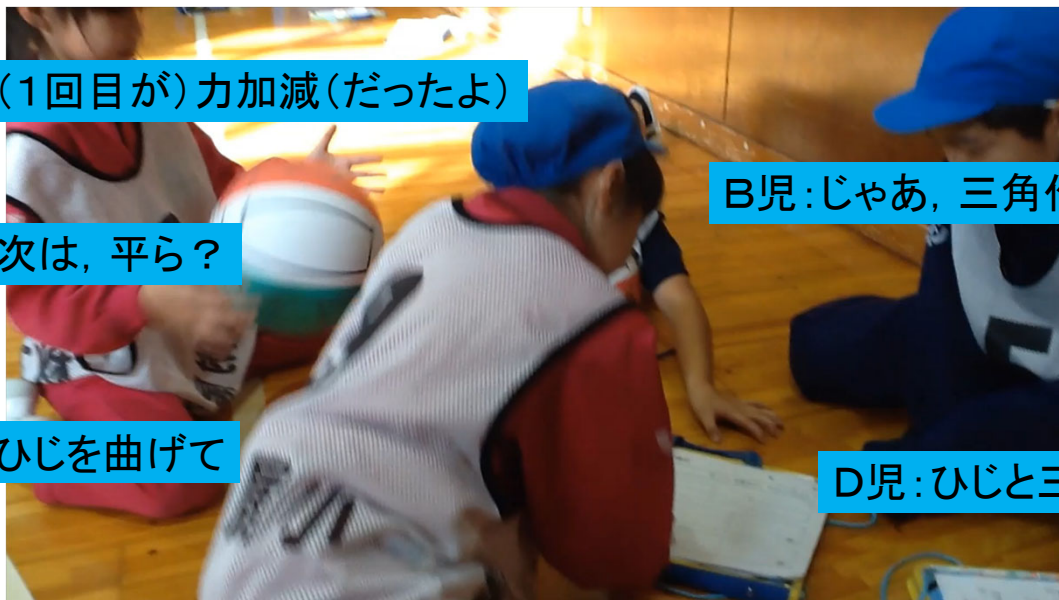
A児:(1回目が)力加減(だったよ)

B児:次は, 平ら?

C児:ひじを曲げて

B児:じゃあ, 三角作る

D児:ひじと三角



確かめのゲームでの作戦の選択・決定②
(6時間目:すべてのパス)

A児:山なり

B児:ボールを
高く上げて

B児:ヒューって

C児:ひざを
準備して



第5学年

本単元の学習の流れ

1時間目 オリエンテーション 試しのゲーム

2～4時間目 知識・技能の習得

ボール操作の技能そのためのこつ

5～7時間目 知識・技能の活用

戦術的な動きそのためのこつ

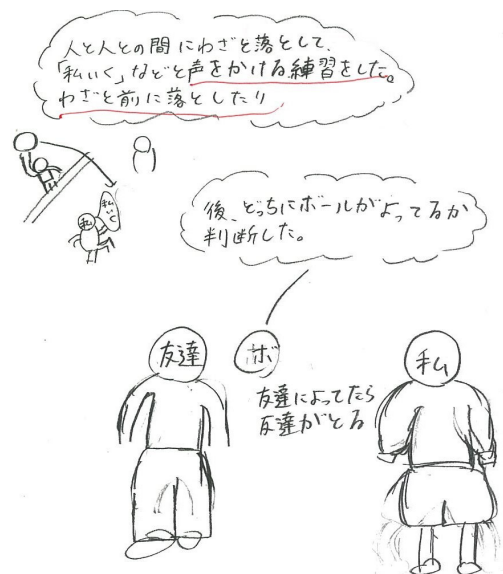
8時間目 試合 仲間との相互評価

	2～4回目	
	パスやゲームをくり返し、自分やチームのよさや課題を見つけよう。	
学習内容	1. 準備・体そう 5分 2. ボール操作の練習 5分 3. タスクゲームの確にん 5分 4. タスクゲーム 20分 5. 確かめのゲーム 5分 (作戦を選んで) 6. 片づけ、ふり返り 5分	

(2) 重点1に関わる手立てと子どもの姿

第5学年

人がいないところ、人と人の間に
ボールがおちるのを防ぐには
(4時間目 課題に対する練習方法の選択)



(2) 重点1に関わる手立てと子どもの姿

パスをつなぐために一人一人がどの位置にいたらいいか
(5時間目 戦術としての配置の選択)

足が速い〇〇
君は

後ろは？

ボールまわしの
うまい〇〇君が

(3) 重点1に関わる手立てと子どもの姿

3回目のパスをネットの近くで打ちやすくするには
(7時間目 課題に対する動きやその練習方法の選択)

後ろから前へつなげ
ばいいんじゃないか。

相手から来たボールを1の人が
ポーンと。次に2の人がキャッチして
こちら辺にパスを出せば。

3回目のパスをネットの近くで行うためには
(7時間目 課題に対する動きやその練習方法の選択)



(2) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

手立て1: 試しのゲームで何ができる, できないを知る省察

- ・1時間目のオリエンテーションの後に, 試しのゲームをする
- ・一人で1分間, 連続してパスした回数を試す
- ・ペアの友だちが回数を数える

自分のできる, できないを知る省察
(1時間目: 試しのゲーム)



自分のできる, できないを知る省察
(1時間目: 試しのゲーム)



(2) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

手立て2:タスクゲームや確かめのゲームを通しての省察

- ・毎時間、知識・技能を高めるためにタスクゲーム・確かめのゲームを行う
- ・個人やグループで こつ を見付けて、全体で共有する
- ・こつ を意識した練習の後に、それができるようになった、まだできていないか、新たな課題は何かを省察する

1 単位時間中の省察 (3時間目:全体での振り返り)



(2) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

手立て3:教師や友達モデルを通しての省察

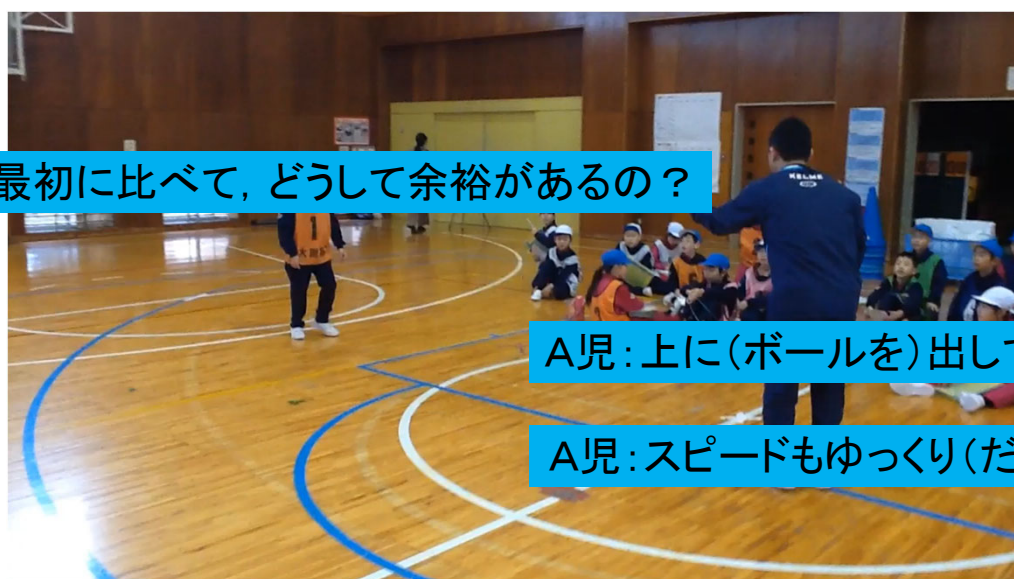
- ・タスクゲームや確かめのゲーム中の様子の観察から, 子どもにとって難しい動きや技能の習得のヒントとなる動きを見付ける
- ・上手にできている子どもや教師の演示によるモデリングを行う
- ・演示の動きを見ることで, 新たな **こつ** を見付ける

手立て3:教師や友達モデルを通しての省察

教師:最初に比べて, どうして余裕があるの?

A児:上に(ボールを)出している

A児:スピードもゆっくり(だから)



(2) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

手立て4: 仲間との相互評価を通しての省察

- ・ゲーム大会では, 兄弟グループで交代してゲームを行う
- ・見ているグループは, 連続の回数と作戦ができているかをチェックする
- ・ゲームが終わった後, 作戦や動き方についてアドバイスする

手立て4: 仲間との相互評価を通しての省察

A児: 山なり, 気を付けて

B児: 力加減



手立て4：仲間との相互評価を通しての省察

B児：力加減，直した方がいいよ

C児：下から，こうしたほうが...（身振りを交えて）



手立て4：仲間との相互評価を通しての省察

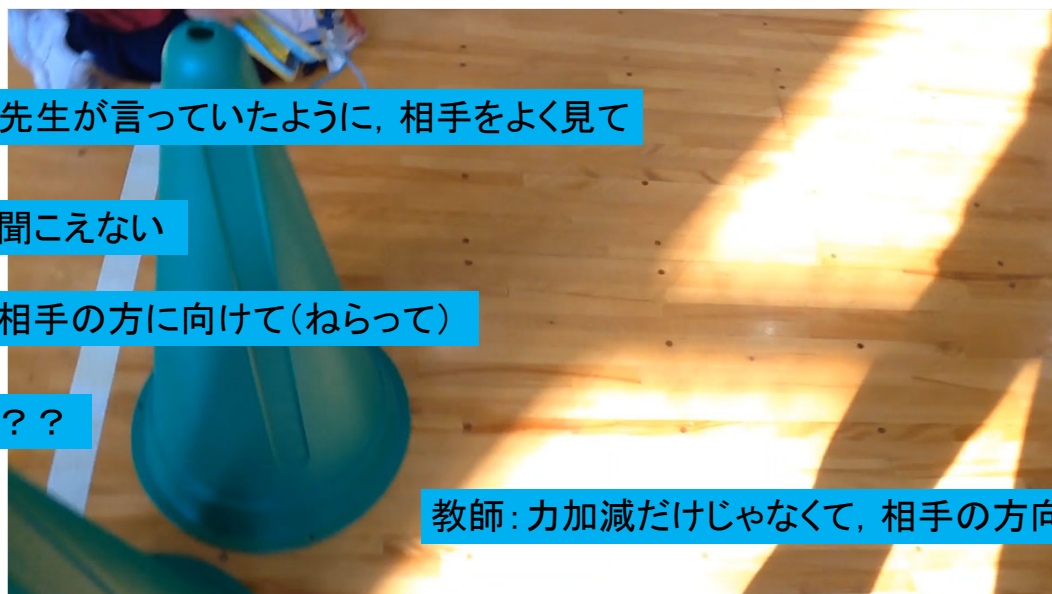
D児：先生が言っていたように，相手をよく見て

A児：聞こえない

E児：相手の方に向けて（ねらって）

A児：??

教師：力加減だけでなく，相手の方向も...



(3) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

パスをつなぐために一人一人がどの位置にいたらいいか

(5時間目 配置の確かめゲーム)



(3) 重点2に関わる手立てと子どもの姿

3回目のパスをネットの近くで行うためには

(7時間目 課題に対する動きやその練習方法の選択)



自身の変容を振り返る

ソフトバレーボールの学習を終えて(上手になったこと、楽しかったこと、来年がんばりたいことなど)

今までの学習で自分から「分かったこと」を友達といっしょに相談したり、相手チームからアドバイスしてもらったりして、知れなかったことが分かった。今日は自分達で、しっかりと作戦を立てることもできたので、友達とのコミュニケーションもとれ、仲が深まったと思いました。

練習や作戦を立てることでコミュニケーションがとれ、仲が深まった。

ソフトバレーボールの学習を終えて(上手になったこと、楽しかったこと、来年がんばりたいことなど)

初めはラリーミスが全く続かず試合というよりも「遊び」に近くなっていたが、ラリーのミス、ポジションなど各段回をへていくうちにボールを落したり、アウトになったり...というミスが目に見えて減っていった。5年生で覚えたことを6年生でも生かせるようにしたい。

こつや動きを考えていくうちにミスが減っていった。

ソフトバレーボールの学習を終えて(上手になったこと、楽しかったこと、来年がんばりたいことなど)

サーブで回転をかけたりするのがうまくなりました。また、ラリーがついたり、練習がいかせたときのしかたです。来年は、キャッチなど一度目のうごきやうり返すのをかんはりたいです。

練習を生かせたときが楽しい。

ソフトバレーボールの学習を終えて(上手になったこと、楽しかったこと、来年がんばりたいことなど)

自分でどんな風にやったら上手にできるか、どんな風にやったらコツをつかみやすいかなど、自分で自分のことを考えて意識するようにすればうまくなる。コツをつかむのが上手になったと思う。ソフトバレーボールにかぎらず、いろいろなことに生かすことができると思うから来年もこのことを心からやりたいと思う。

こつをつかむのが上手になった。

成果と課題

成果

- ・動きのこつに着目し，課題解決に向けた作戦（こつ・戦術）を選択・決定する学習過程の有効性。
- ・できるや次の課題の発見につながる，結果や記録を基にしたり，仲間との対話を通してりする客観的に行う省察。

成果と課題

成果

- 低学年 ： 数値や得点・回数などの具体物する省察
- 中学年 ： 仲間や教師などのモデルからの省察
- 高学年 ： 他者になぜできるかを説明するなどして概念化する省察

成果と課題

課題

- ・選ぶ作戦(こつ・戦術)の提示の在り方や教師の支援。
- ・次の学年で行う省察方法の取り入れ方。

第2回校内研修会 外国語研修会

これからの小学校外国語教育

August 27, 2020
Ryo Fujita

CONTENTS (Theory)

1. 外国語教育における指導者（HRT）の役割
2. 授業づくりにおけるポイント ～言語活動例～
3. 文字の取り扱い ・ 「読むこと」 「書くこと」
4. 英語運用能力の向上 ～Classroom English～

1. 外国語教育における 指導者（HRT）の役割

1. 外国語教育における指導者（HRT）の役割

①児童へ安心感を与える

- 「間違えても大丈夫！」という学級の雰囲気
- 「ほめる英語」を繰り返し用いて励ます

⇒詳細は4. Classroom Englishで



1. 外国語教育における指導者（HRT）の役割

②コミュニケーションのモデルを示す

HRT・・・英語学習者の一人として
児童とともに英語を使い学ぶ存在

◎ALTとも堂々と英語を使って話す姿を見せる

○ALTの後に発音や表現を真似て言うなど
常に児童と同じ目線・スタンスで取り組む

（実践例）HRT→ALTに英語で尋ねる姿を示す



「花火は英語でなんて言うんだろう？」

中学年… “*Hanabi* in English, please.”

高学年… “How do you say *Hanabi* in English?”

繰り返しHRT自らが「英語を使うモデル」を示す
⇒児童も同じ表現でALTに尋ねるようになっていく

2. 授業づくりにおける ポイント ～言語活動例～



外国語活動・外国語科 目標

<外国語活動>

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

<外国語科>

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 授業づくりにおけるポイント ～言語活動例～

＜外国語活動や外国語科における言語活動とは＞

「実際に英語を使って互いの
考えや気持ちを伝え合う」活動

△パターン化したやり取り

△言語材料について理解したり練習したりするための活動

△日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動

（言語活動を通しての具体例①） Small Talk

概要：LIVEで子どもが本当のことを聞いたり
言ったりする活動

目的: (1) 既習語句や表現を繰り返し活用し,
自分の考えや気持ちを伝え合わせる

(2) できるだけ対話を続けさせる

Small Talkの例

<p>A: What sport do you like?</p> <p>B: I like soccer.</p> <p>A: You like soccer?</p> <p>That's nice. Why?</p> <p>B: It's fun. How about you?</p> <p>What sport do you like?</p>	<p>A: What food do you like?</p> <p>B: I like watermelon.</p> <p>A: Me, too. Why?</p> <p>B: It's sweet.</p> <p>How about you?</p>
好きなスポーツについて	好きな食べ物について

Small Talkの進め方

- ①HRTとALT/児童で簡単なやり取り
- ②児童と児童でやり取り

まずは、やらせてみる
(語句や表現の選択・決定)
- ③中間評価・指導 (省察)

・言えなかったことを、既習表現に結び付けられるよう指導者がヒントを出す
 ・みんなはどう表現するばよいか考える
- ④相手を替えて児童と児童でやり取り

よりよいやり取りを試す
(語句や表現の選択・決定)

対話の開始	Hello./How are you? I'm good. How are you?
繰り返し	相手:I went to Tokyo. 自分: (You went to) Tokyo.
一言感想	That's good./That's nice. Really?/That sounds good.
確かめ	Once more, please.
さらに質問	相手:I like fruits. 自分:What fruit do you like?
対話の終了	Nice talking to you./You, too.

(言語活動を通しての具体例②) デジタル教材の活用

Let's Listen

だれの作品かさくひんを聞いて、線でむすぼう。

1



2



3











Let's Try! | Unit 7 Let's Listen (p.29)

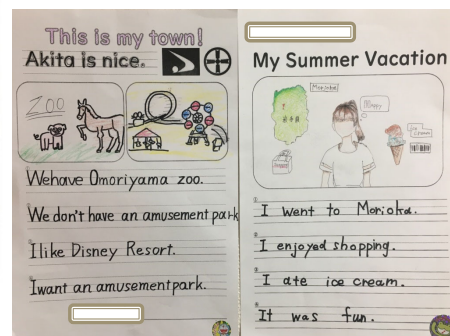
“Repeat after me.”は楽ですが…

- △児童が本当に「考えて」発話していない
- △繰り返しやっているだけでは、飽きてしまう

※言語材料についての反復練習だけで
その日の授業が終わることのないように留意する

☆自分の考えや気持ちを，簡単な語句や
基本的な表現を用いて伝え合うことが大切

3. 文字の取り扱い 「読むこと」「書くこと」

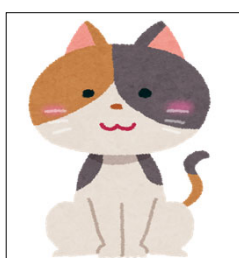


言語習得のプロセス



☆聞いたり，話したりする
音声の十分な慣れ親しみが大切

段階的な文字指導のイメージ



cat

【外国語活動】

“I like cats. / Do you like cats? / I have a cat”
などさまざまな活動の中で猫＝キャットという表現に
聞いたり話したりして，音声で十分に慣れ親しむ



【外国語科】

「cat」という文字を見ただけでも猫という意味を理解



<読むこと>

- ・パンフレットから「cat」の情報を得る
- ・絵本の中から「cat」を識別



<書くこと>

- ・「cat」を書き写す
- ・例文を参考に語群から「cat」を書く

＜読むこと＞

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

＜書くこと＞

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

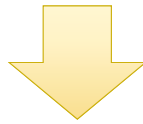
イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書くことができるようにする。

いきなり英作文を書くの？		～昨年度実践例～
	例文例	ワードボックスから選んで 書き写す語句・基本的な表現例
第1時	I went to (the sea).	the mountain, the river, Tokyo等の場所・地名
第2時	I went to (the sea). It was (fun).	(第1時の語句に加えて) exciting, good, nice, great等の 形容詞
第3時	I went to (the park). It was (nice).	
第4時	I ate (pizza). It was (delicious).	seafood等の名詞, delicious, sweet等の形容詞
第5時	I enjoyed (fishing). It was (exciting).	swimming等のしたこと, fun等の感想
第6時	I went to the sea. It was exciting. I enjoyed fishing. It was nice.	前時までに空所補充の形式で書き写 してきた英文を見ながら書き写し, 日 記に清書する

4. 英語運用能力の向上 ～Classroom English～

4. 英語運用能力の向上 ～Classroom English～ Classroom English

目的：△児童のリスニング能力を飛躍的に向上



- ◎「英語の授業の雰囲気づくり」として
- ◎コミュニケーションのモデルを示すため

☆授業中の指示や質問にできるだけ
教師も英語を使うように努力したい

Classroom Englishを用いる際の留意点

- ①児童の理解の程度を一文一文確認しながら
- ②ゆっくり、はっきりと言うように心がける
- ③簡単な文で、たくさんの指示や長文を避ける
- ④新出の表現は何度か聞かせるとともに
動作を加えたり、絵を描いたりして工夫する
- ⑤文頭や文末にpleaseを加えて指示を出す

ほめる (PRASING)

1	正解です	That's right!
2	よくできました	Good!/Great!/Good job!/Well done!
3	いいアイデアですね	Good idea!
4	素晴らしい/いいね	Wonderful!/Excellent!/Fantastic!/Super!/Perfect!/(That's)Nice!
5	がんばりましたね	You did a good job!
6	おめでとう	Congratulations!
7	よくやっていますね	You're doing [fine/well/great].
8	(どうも) ありがとう	Thank you (very much)./Thanks (a lot).
9	[彼/彼女] に拍手しましょう	Let's give [him/her] a big hand.
10	手伝ってくれてありがとう	Thank you for your help.

令和2年度 校内研修会
外国語・外国語活動

実践編

I はじめに

外国語との出会い

- ・人前で英語を話すことへの不安
- ・文字に対する不安

音声を中心とした
体験的なコミュニケーション活動

子どもの不安
体験してみませんか？

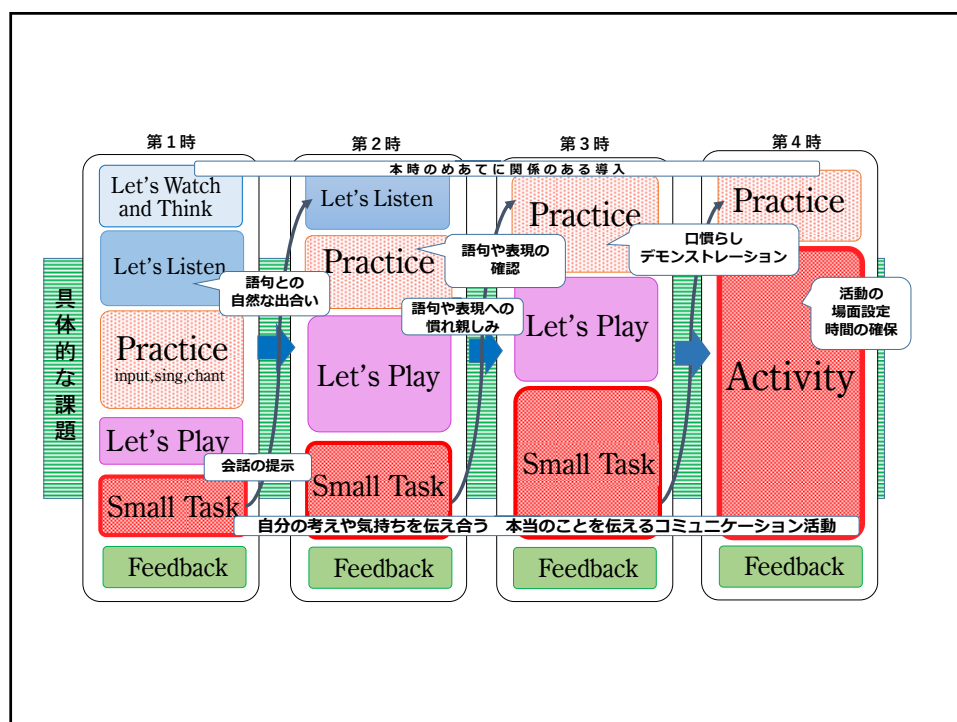
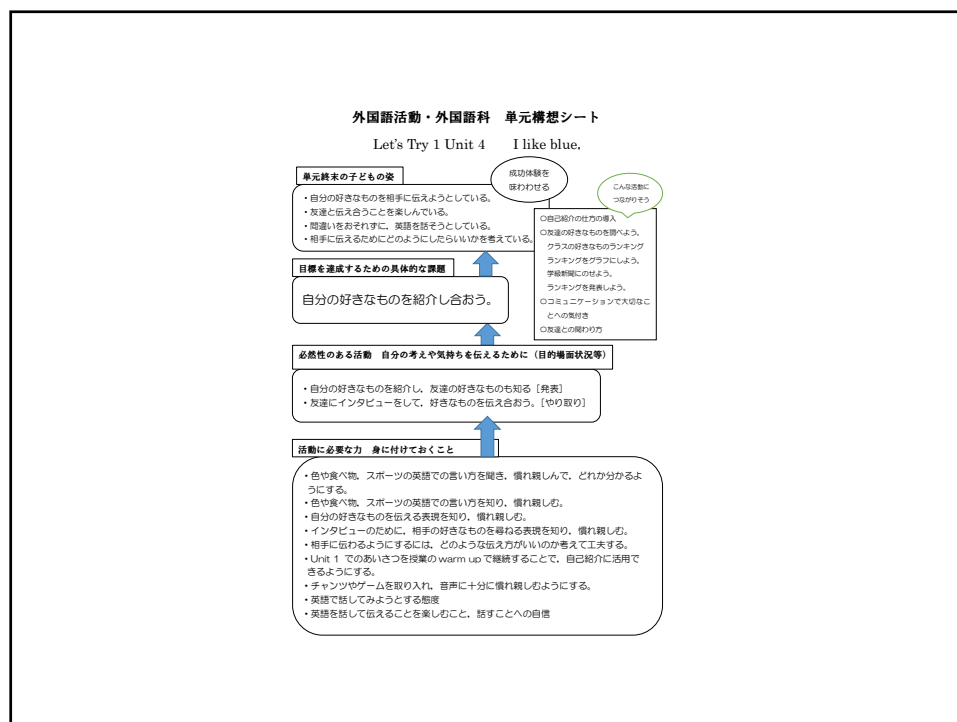
2 クラスルーム イングリッシュ

- 英語だけで話そうとするより、日本語の量を減らそう。
- よく使う表現を正しく使おう。
- 教師がかわっても、子どもが戸惑わないようにしよう。

ALTとHRT

- ALTにどのような活躍の場をつくれますか？
- ALTとどのような分担をしますか。

3 単元計画と教材



教材の作り方



教材の作り方

- 教具を増やすことより、
使い方のバリエーション
を増やす。
- どのくらい作るかではな
く、どう使うのか。

4 ゲーム チャンツ 歌 絵本の読み聞かせ

授業実践から



チャンツ

- 日本語と英語のリズムの違いに気付き，言い慣れる活動
- 言い慣れた単語を使う。

5 コミュニケーション 言語活動

コミュニケーション活動



実践授業から

- ・ 第3学年 新学習指導要領移行期間 年間15時間
- ・ Let' s try! Unit4, 「自分の好きなものを紹介しよう」 6 / 15
- ・ 絵本の活用（絵本＋やり取り）
- ・ 色，フルーツ，スポーツ，I like～

- ・ Let' s try! Unit8, 「クイズ大会をしよう」 11 / 15
- ・ 読み聞かせ＋クイズ＋やり取り＋input
- ・ リアクション
- ・ 数，動物，野菜，what's this?

5 「読む」「書く」って 何をするの？

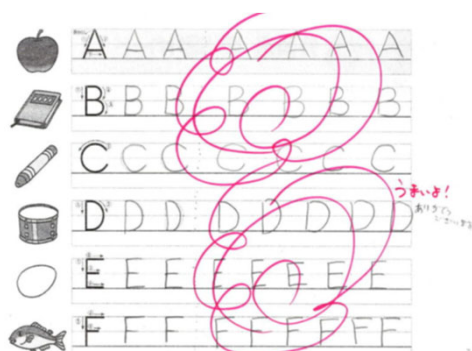
「読むこと」「書くこと」

- 聞くこと……理解できるようにする。
- 話すこと……話すことができるようにする。
- 読むこと……興味を育てる
- 書くこと……興味を育てる

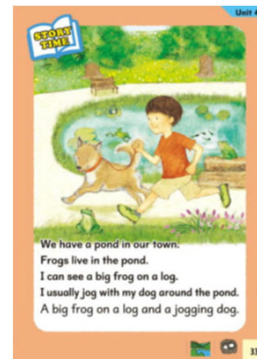
「書くこと」に求められていること

- アルファベットの太文字と小文字を4線の上に書けるようになる。
- 十分に言い慣れた基本的な表現や語句を、書き写すことができる。
- ▲つづりを覚える
- ▲話するために原稿を書く
- ▲語句や文だけを書く活動をする。

大文字、小文字を活字体で書くことができる。



英語の自然な音声を繰り返し聞き，絵を手掛かりにその意味や内容を推測したり，文字と結び付けたり，単語や文，語順などの認識を深めたりする。

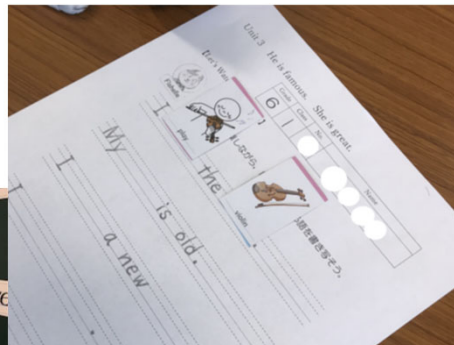
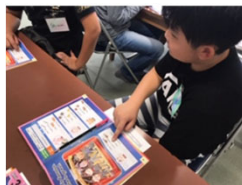


音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を，ワークシートに語順を意識しながら書き写したり，友達が書いた文を読んだりする。

My Summer Vacation

- ① I went to Nagano.
- ② I enjoyed cooking.
- ③ I ate Tonjiru.
- ④ It was delicious.

語順を意識するための活動



5 評価について

2学期 外国語 科 評価項目							令和2年度	6年生		
1	☆	外国語の音声や文字、基本的な表現に慣れ親しもうとする。		☆						
2	○	ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。		聞く	知・技					
3	○	A～Zまでの活字体で書かれた文字を識別したり、その読み方を発音したりすることができる。		読む	思・判・表					
2学期 外国語 科 評価項目							令和2年度	6年生		
1	☆	慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。		☆						
2	○	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。		聞く	知・技					
3	○	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。		話す(やり取り)	思・判・表					
4	○	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。		読む	知・技					
5	○	語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き等することができる。		書く	知・技					
3学期 外国語 科 評価項目							令和2年度	6年生		
1	☆	慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。		☆						
2	○	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。		聞く	思・判・表					
3	○	自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		話す(発表)	知・技					
4	○	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。		読む	知・技					
5	○	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。		書く	思・判・表					

仲間との関わりを
主体的に求め、
学校生活の充実と向上を
目指す子どもを育む学び



令和2年11月30日

秋田大学教育文化学部附属小学校
菅野 宣衛

特活部の研究テーマ

仲間との関わりを**主体的**に求め、
学校生活の充実と向上を
目指す子どもを育む学び

～よりよい人間関係を形成する
学級活動を通して～

特別活動における自律した学習者の姿

話し合い活動において
他者の意見について
共感的かつ**建設的**に関わり、
学級や学校の形成者としての
「見方・考え方」を働かせながら、
学校生活がよりよくなるような考えを
主体的・協働的に導き出そうとする姿

どのように？

昨年度の成果

- ・ **「お試し」の活動やプレゼンテーション**
→主体的で目的意識をもった話し合い活動に
- ・ **自他の変容を見つめ、互いのよさを共有する場**
→話し合いの進め方に対する自覚
→よりよい合意形成の図り方への理解の深まり
- ・ **議題選定の理由を確認し、視点として共有する**
→「工夫考案型」の建設的な話し合いに

昨年度の課題

- ・主体的に話し合い活動を進め、
よりよい合意形成を図る指導の在り方

どのようにすれば
子どもたちが
主体的に話し合い
よりよい合意形成を図る
ことができるのか？

主体的に話し合い活動を進め
よりよい合意形成を図るために

何に
ついて？

論点

どのように？

方法

話し合いを進めるのか
自覚していることが必要

研究の重点

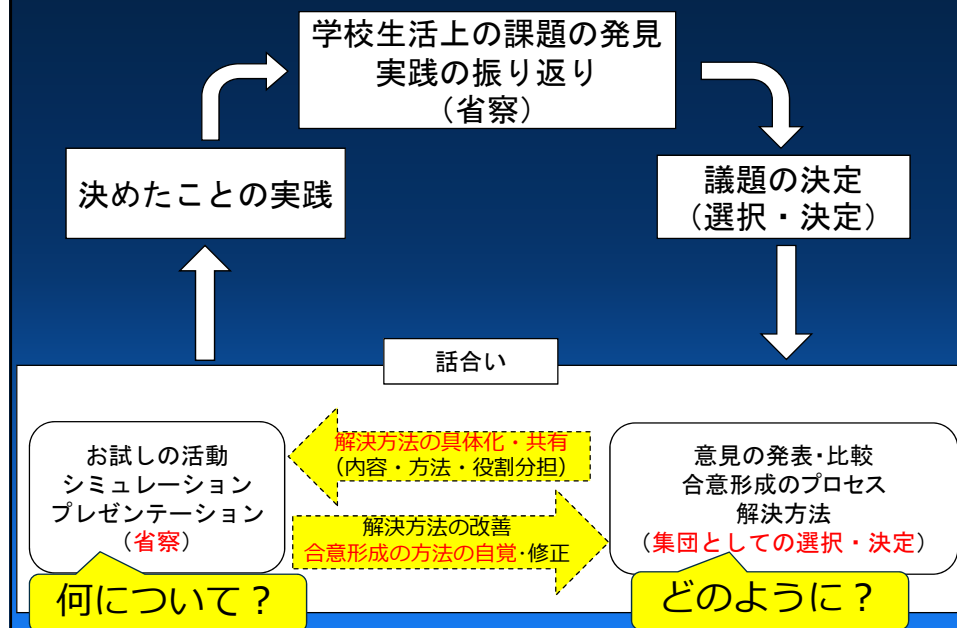
- 学校生活上の課題解決を目指す
目的意識のある話し合い活動にする
ための省察の場の工夫

何について？

- よりよい考えを協働的に導き出す
合意形成のプロセスの工夫

どのように？

学級活動（1）自律した学習者を育てる学習のプロセス



1年生の取り組み

どのように？

- 活動の似ている係をまとめる
- 係にしたらいいものと、自分で行うとよいものがあることを分類する
- 係の人数が多いときには譲り合うと解決する

6年生の取り組み

何について？

- 共通体験を土台とした焦点化した話し合い

どのように？

- フロアの参会者も合意形成の方法について助言できるように
- 司令塔（話し合いを俯瞰し、司会・黒板記録への助言をしながらコーディネートする役割）の設定

授業実践（5年）

第2回5C チームワークを高めよう 集会を開こう

～つくろう協力し合える楽しいクラス～



クラス目標「協楽」



どうすれば
協力し合えるようになれるのか？



5Cのチームワークを
高める集会を開こう

1学期に
第1回集会を
実施

子どもたちの実態

出し合う

○意欲的



比べ合う

▲論点がずれる
(賛成・反対のみで
非建設的)



まとめる

▲どのように
まとめるのか迷う
(よいところを活かせない)

目的意識のある話し合い活動にするための省察の場の工夫

何について？

課題や解決策を
具体的に捉え直す
省察の場の設定

議題 もっとチームワークが高まる
集会にしよう



提案の際に**お試し**の活動



課題や解決策を捉え直す場

チームワークを高める ポイント


助け合う

一人一人に役割がある

共通の目標がある

= 省察の視点

5C会議 意見カード 10月 14日	
名前 ()	
議題	もとチームワークを高める活動にしよう。
話し合いの めあて	チームワークがもと高まるように活動を工夫しよう ①入役 ②助け合い ③同じ目標
決まってい ること	なぜ当ア候とき、ミッションのルールをついかける。
☆質問したいこと（ある人は書く）☆	
☆自分の考え☆ なぜ当ア→せいげん 時間をもと短くしたほうがいい なぜとき→ゆからない人もあるしなぜなの（なぜなぜ なども出したほうがいいと思う。 ミッション→グループが 最初どこから回るか決めれば こつよくできる（きめるのは係） ☆理由☆	

課題	解決策
<p><u>もっと</u> <u>助け合える</u> ようにしたい</p> 	<p>単語ではなく 文に</p> <p>ヒントを言う 回数を制限</p> <p>順番に言う</p>

チームワークをもっと高めるように 活動を工夫する



提案者の振り返りカードから

ふりかえり今日の話し合いで、私たちおたんとお話ししているゲームの話し合いがあって、
5Cのみんながどうしてほしいか、どこになにをどうかふうにつけてほしい
いのがわかって、次のゲームをもっといいものいしたいと思いました。

- ・ 5Cのみんながどうしてほしいか
分かった。

ふりかえり

今日は私の係でもなとくすあうな、いい意見をたくさん出して
くれたのでぜひ本番で使いたいなと思いました。いかり本番に向けて
お話しをすすめていこう。

- ・ いい意見が多くぜひ本番で使いたい。

集会後の振り返りカードから

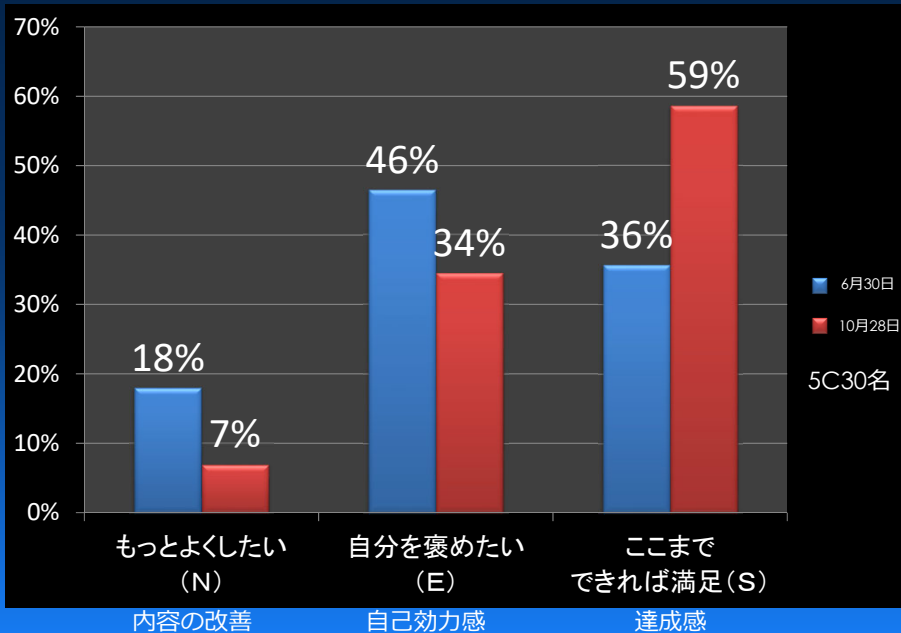
おためしめるときは「ここがいまいち」と思ったり分かんず
 ぎる」と3つのゲームで思っていました。だけど今回
 の本番では、「同じ目録票」「人役」「助け合い
が3つのゲーム全てできていました。ぼくはこの集会
でチームワークも高くなったと思うけども1回だけ
の話し合いでこれなにより集会になつていたの
ですごいな思いました。

話し合いにより活動が改善された



話し合ってよかった！

提案理由を意識して集会ができましたか



目的意識のある話し合い活動にするための省察の場の工夫による変容

- 提案内容のよさや課題を明確に捉えられるように
- 解決策が具体的に

体験的活動という
具体を基にした省察



目的意識の高まり

助け合えるようにしたい

提案者から出された課題



合意形成につながる
何について? 論点の焦点化



未完成→児童が選択・決定する余地



主体的に話し合う姿

合意形成のプロセスの工夫

合意形成に至る 手順・方法を絞り込む

どのように？



意見カードを基に司会グループが
選択し，参会者に提案

司会グループ

意見カードを基に話し合いの
流れをシミュレートする



予想される意見や
まとめる手順・方法を
選択し，司会カードに記入



参会者と共有

論点 (何について)

助け合いを増やしたい

一人一役になるようにしたい

手順・方法 (どのように)

対立する意見は
なさそうだ
↓
賛成が多い意見
に絞り
少しずつ行おう

10/15
15/15
【決定の仕方】例: A①→②→④か⑤→B
話し合い1
話し合い2
A: たくさんさんの意見が出たとき
※必ずみんなに決め方を確認する。
①にしている 意見を まとめる。
1つに まとめてもいい 意見は ありませんか。
合休しても いい 意見は ありませんか。
②賛成の 多い 2つが 3つの 意見に しぼって、
話し合いを すずめる。
賛成の 多い、〇〇と 〇〇と 〇〇に しぼって
話し合います。へについて意見を出して下さい。
③順番を決める
順番を決めて行うということでしょうか。
④条件をつける
もしこうならできるといふアイデアはありますか。
⑤少しずつ行う
A・Bを少しずつ行うということでしょうか。
⑥ゆずれ合う
ゆずれる人はいますか。
B: みんなが 同じ 意見の とき
〇〇に 賛成が多いのですが、 ちがう考えの人はいま
すか。 いなければ、 決定して いいですか。
話し合い1の〇〇については、 〇〇〇にきまりました。
次に、 2 〇〇〇について 話し合います。(同じす
ずめ方)
10 決まったことの 確認
決まったことを確認します。ノート書記の 〇〇さん
お願いします。
今日のふり返りをします。
(書き終わったふりがえり)を、発表してください。
話し合いMVPを発表してください。
のお話
先生のお話です。先生、おねがいします。
りの言葉
これで、第10回 5C会を終ります。

今年度追加した話し合いの技

改善するための
意見を出し合う



- ・ 賛成の多い意見 2～3 つに
絞って進める
- ・ 少しずつ行う



確認して決める

それぞれの考えの よいところを活かす話し合いの技

- ①新しい考えをつくる
- ②考えを合わせる
- ③順番を決める
- ④条件をつける
- ⑤少しずつ行う
- ⑥ゆずり合う

子どもたちがよく用いていたものを整理

話し合いの技を用いた発言が増え、建設的に



話し合い後の振り返りカードから

今日の話し合いのMVPは (代案を出して) さん

理由は 意見が大事にしていると思ったからです。

有効な発言の仕方を価値付ける



ふりかえり 今日自分の係のことがあったので司会にあてられてはなす場面がたくさんありました。また⑤少しずつという意見の話し方ができました。

話し合いの技の自覚化

参会者の振り返りカードから

ふりかえり 工夫が詰まってよかったです。これをつかって17/16アップ

させた会にしたいです。みんな意見の質があげられたので

よりよい話し合いになったと思います。

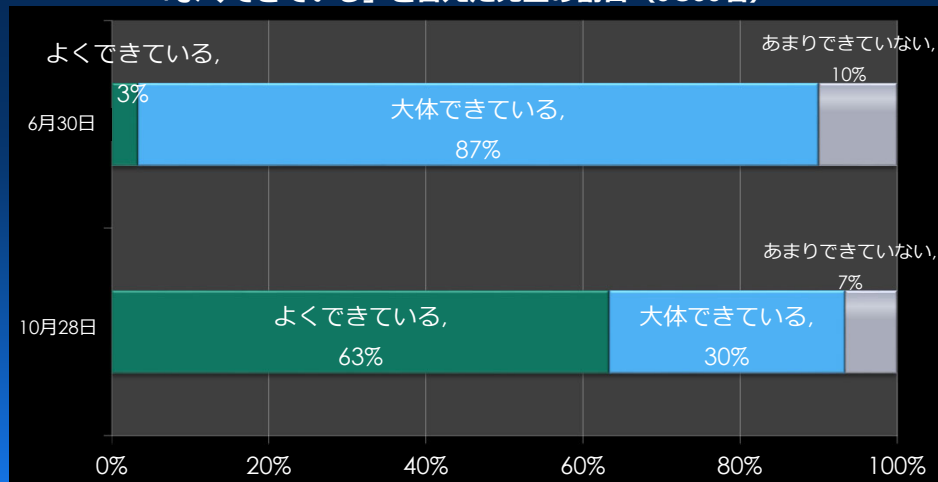
今日の話し合いのMVPは (K) さん

理由は、積極的に出る意見がでていて、係も参加する人に引き出し
のあるようなことにしていたから。

参会者も話し合いにおける 意見の質の高まりを実感

話し合いのカチェックカードから

「自分もよくてみんなもよい話し合いの技」を使って意見を発表する
「よくできている」と答えた児童の割合（5C30名）



司会者の振り返りカードから

ふりかえり

みんなの意見をまとめられた。チームの意見をよくみんなの納得のいく案で進められたと思う。時間がオーバーしてしまっ

今日の話し合いのMVPは (S) さん

理由は、だれも考えなかったような、特別なヒールを用意するというそれぞれの良い所を全かすの①新しいに合った意見で良いと思

た。

- ・ みんなが納得いく案で進められた
- ・ 話し合いの技も自覚している

合意形成のプロセスの工夫による変容

- 司会グループが どのように？ 見通しを持って、話し合いを進められるように
- 参会者の発言が、合意形成のプロセスに沿った建設的ものに

話し合いの見通しを共有

話し合いの進め方→

児童が選択・決定する余地を残す

成果

- 論点となる課題や改善策を明確にし、話し合いに向かう目的意識を高める上で体験的活動を基にした具体的な省察が有効
- よりよい合意形成に向けた手順・方法を選択し、共有することで司会グループも参会者も見通しをもって話し合いに参加することが可能に

課題



「それぞれの考えのよいところを生かす」力を高めたいと考えている児童が約4割



- 課題解決に向けて
「互いの考えのよいところを生かす」経験を積み重ねていく場の設定

<参考文献>

日本特別活動学会 2019年 「キーワードで拓く新しい特別活動—平成29年版・30年版学習指導要領対応」 東洋館出版社

森 和彦 2010年 「NES型学習自己評価法の工夫と改善～公立小学校での非限定的臨床応用による考察～」 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 (34) 119 - 128

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター編 2019年 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」 文溪堂